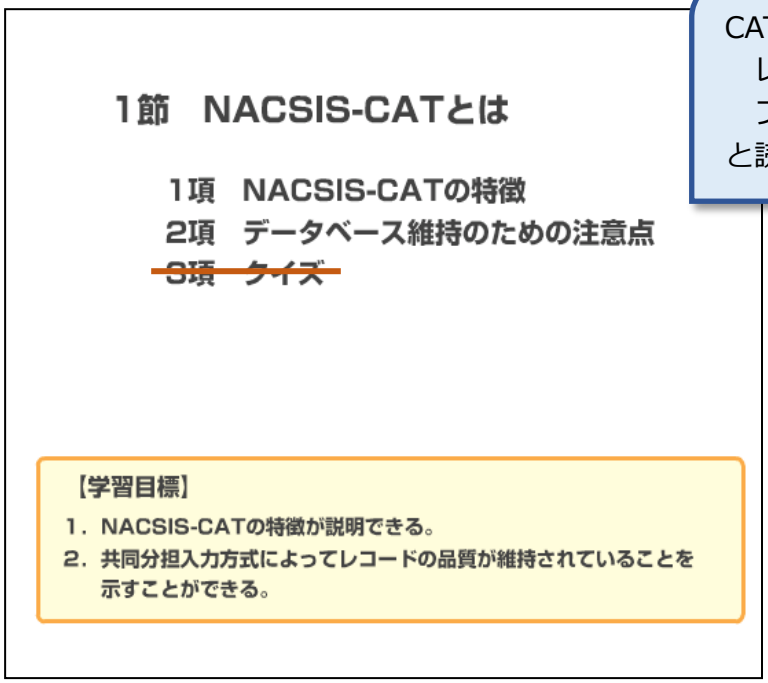
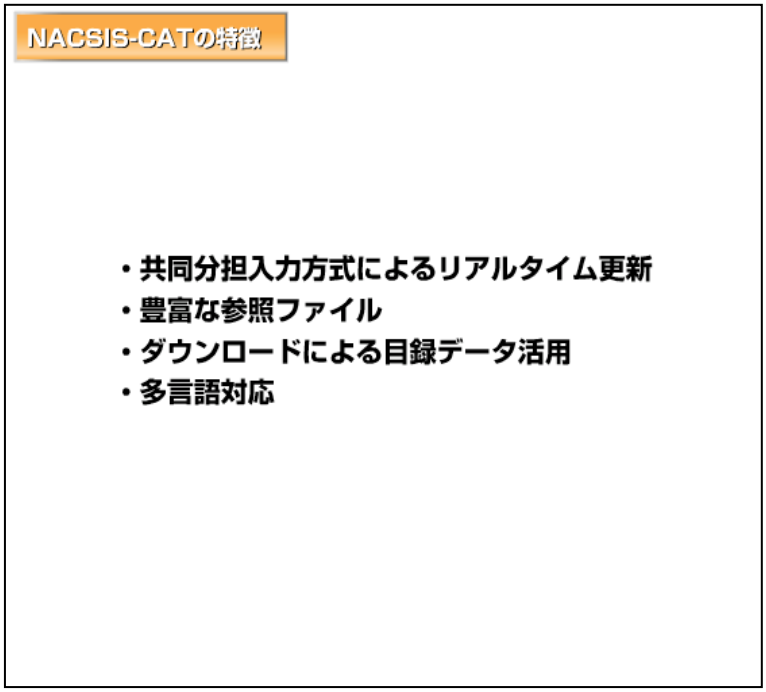
1節　NACSIS-CAT とは



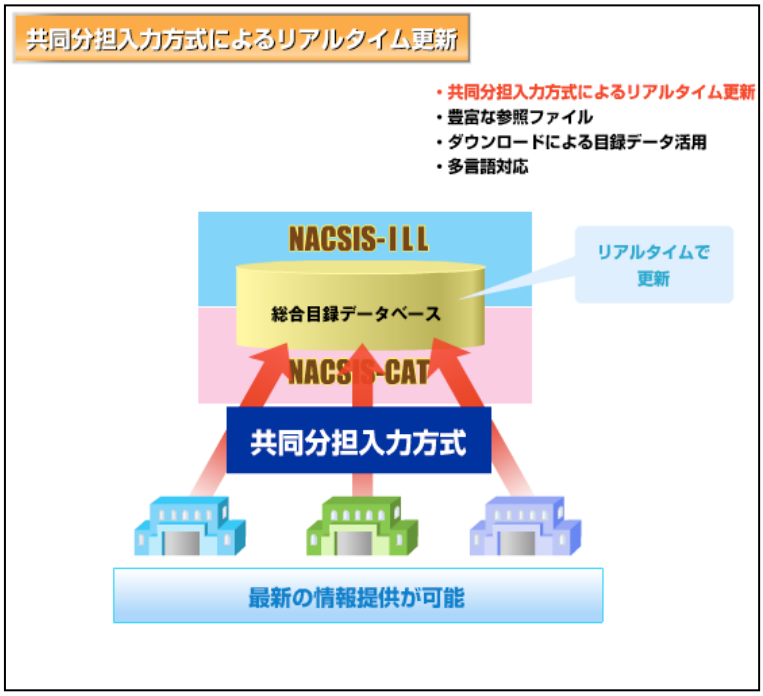
CAT2020 運用開始以降は、
　レコード ⇒ データ
　ファイル ⇒ データセット
と読み替えてください。

1 項　NACSIS-CAT の特徴

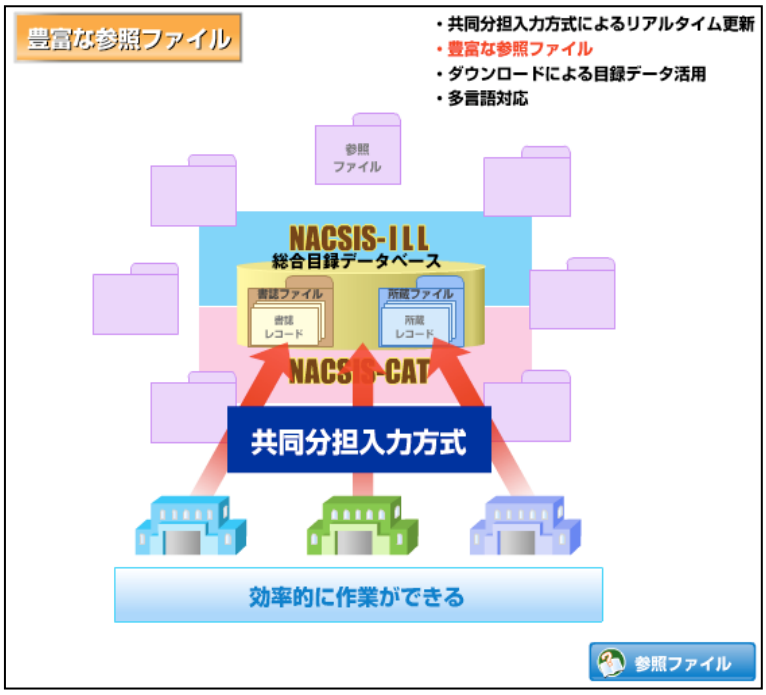


NACSIS-CAT は左に示したような特徴を持っています。順に見ていきましょう。

1節　NACSIS-CAT とは

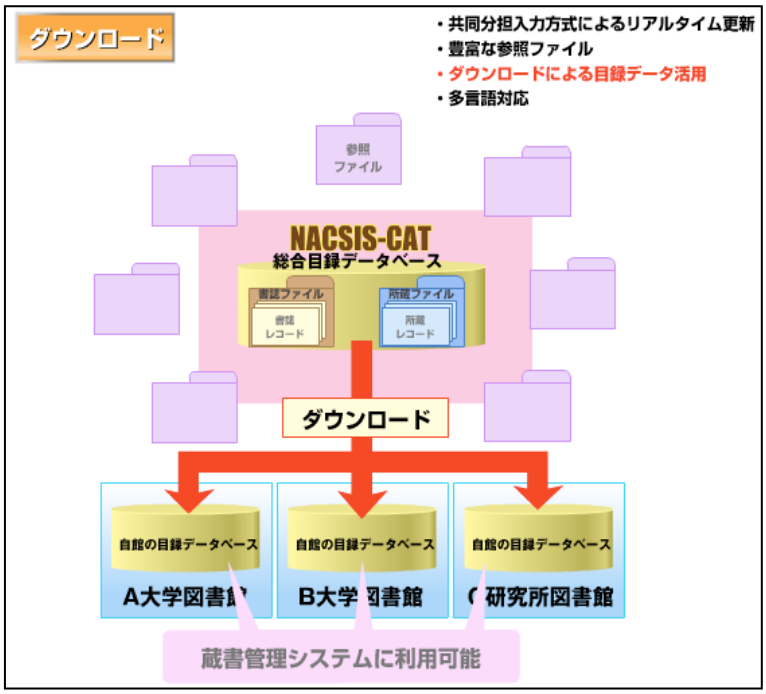


NACSIS-CAT の最大の特徴は、オンラインによる共同分担入力方式を採用していることです。
参加館がオンラインで作業することにより、総合目録データベースをリアルタイムで更新でき、常に最新の情報提供が可能となっています。



NACSIS-CAT では書誌ファイルと所蔵ファイルが中心となり、総合目録データベースを形成しています。
豊富な参照ファイルが用意されており、参加図書館は参照ファイルのデータを利用して書誌情報を作成することが可能です。
さらに、全国の図書館が共同分担して書誌情報を作成するため、全体として効率的に目録作業を行うことができます。

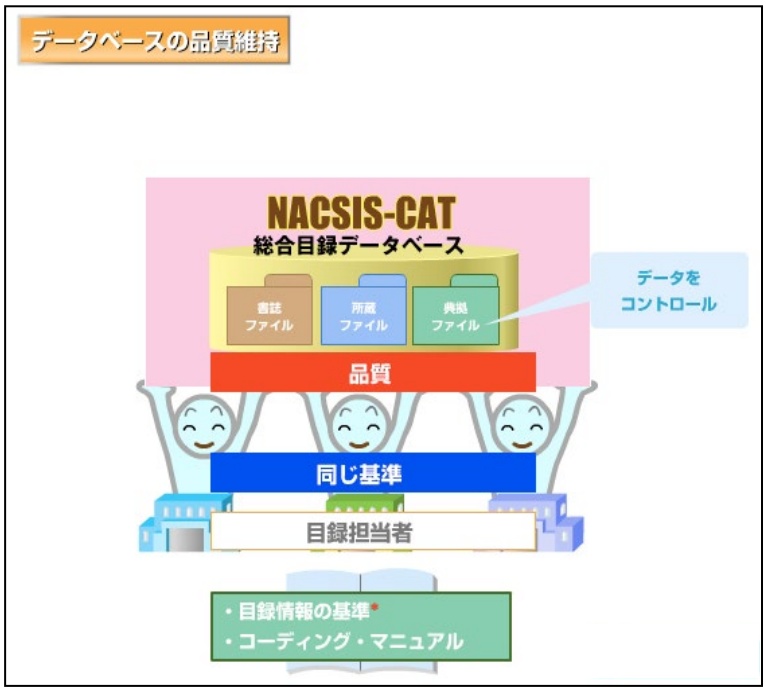
1節　NACSIS-CAT とは



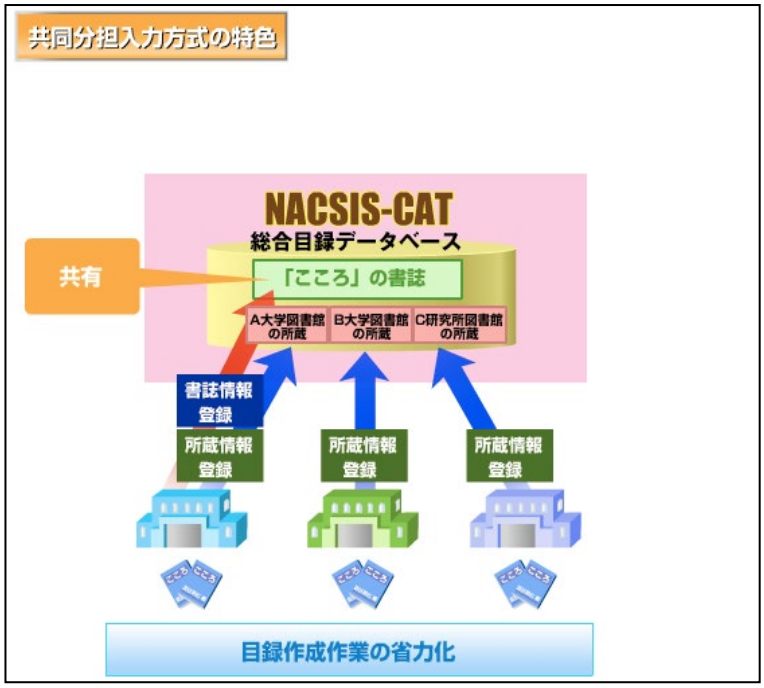
総合目録データベースに登録した目録データは、ダウンロードすることにより各図書館の蔵書管理システムで利用することが可能となっています。

NACSIS-CAT は 2000 年から多言語に対応しています。
各図書館で扱いが難しくデータの入力が遅れていた、特殊な言語の資料、例えば中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、タイ語などにも対応しています。

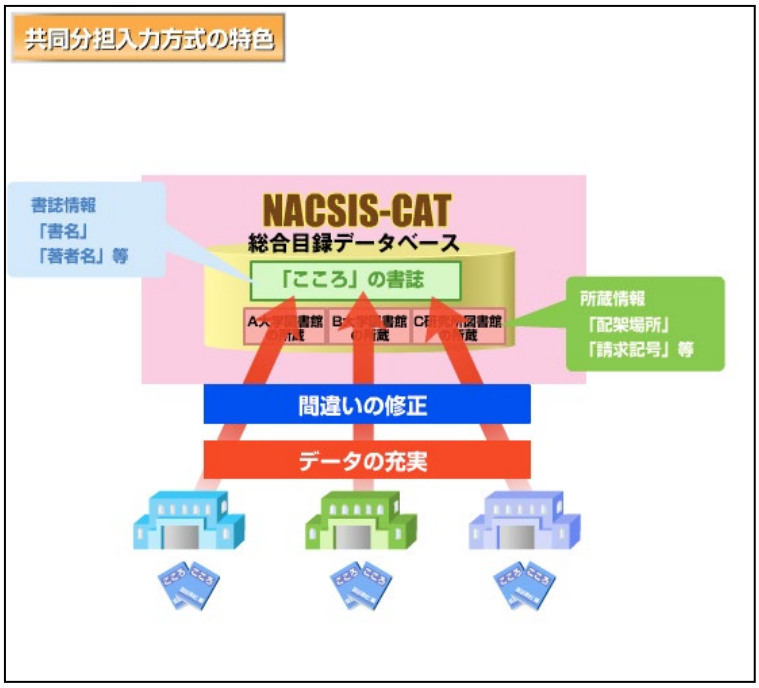
2項　データベース維持のための注意点



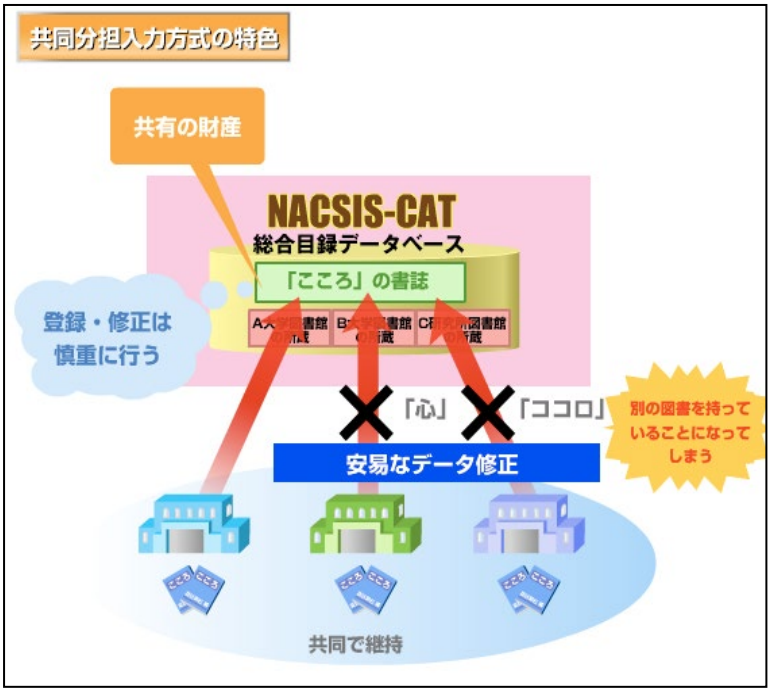
総合目録データベースの品質を支えるのは、各参加館の目録担当者です。
そして目録担当者が同じ基準でデータベースの品質を維持するために、『目録情報の基準』や『コーディングマニュアル』が用意されています。
また、著者名典拠などの典拠ファイルによりデータがコントロールされています。



共同分担入力方式を詳しく見てみましょう。
例えば、ある資料の目録情報を総合目録データベースに登録する場合、最初に入力する図書館は書名、著者名といった書誌情報と、所蔵情報を入力する必要があります。
しかし、次に同じ資料を登録する図書館は、すでに登録されている書誌情報に対して、所蔵情報を入力するだけでよいのです。
このようにして書誌情報を共有し、全体としての目録作成作業を省力化するのが共同分担入力方式なのです。

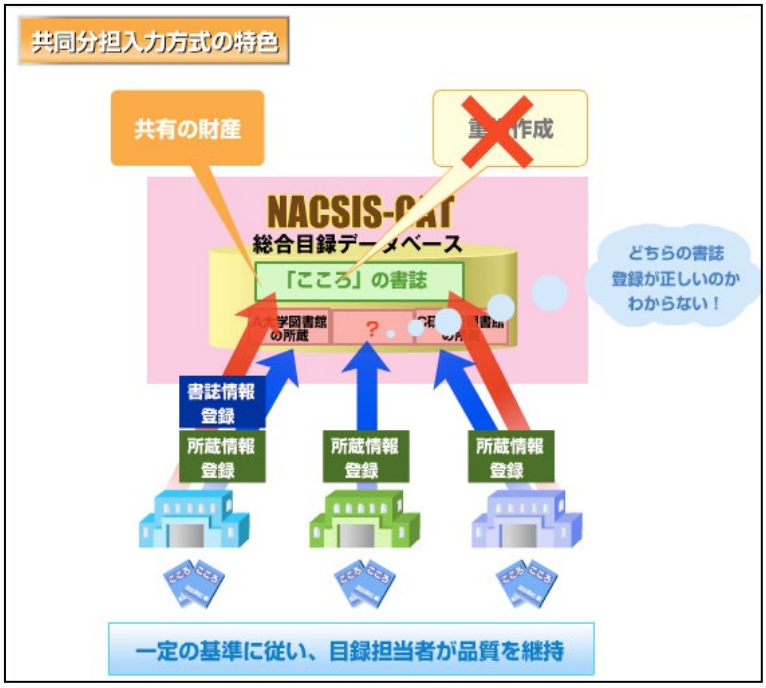


また、参加館の目録担当者が、オンラインで書誌情報の間違いを修正したり、データを充実させることができるのも、共同分担入力方式の特色です。



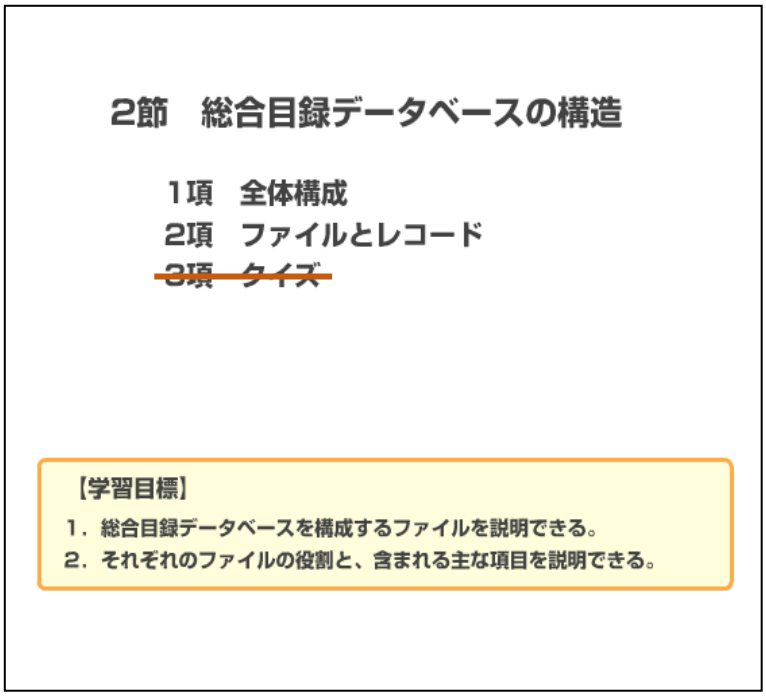
ただし、書誌情報は共有の財産ですので、新たに登録したり修正するときは、慎重に行う必要があります。
既存の書誌情報を安易に書き換えてしまうと、別の図書を持っていることに書き換わってしまうのです。

1節　NACSIS-CAT とは

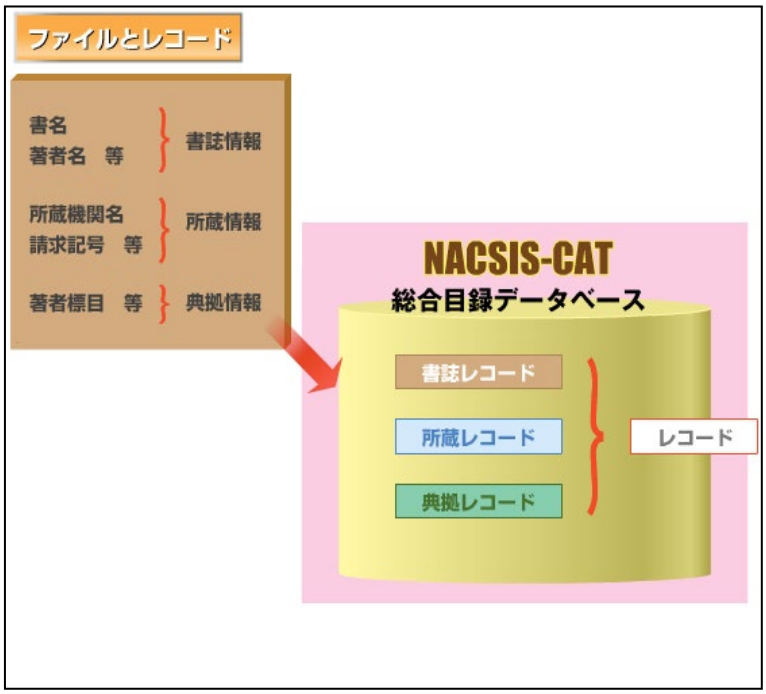


新たに書誌情報を登録する場合は、その資料の書誌情報がすでに登録されていないかどうか、総合目録データベースを十分に検索する必要があります。
不十分な検索で、書誌情報を重複作成してしまうと書誌情報が２重３重となり、利用者が混乱する原因となってしまいます。
総合目録データベースの書誌情報は共有の財産ですので、一定の基準に従って目録担当者が品質を維持する必要があるのです。

2節　総合目録データベースの構造



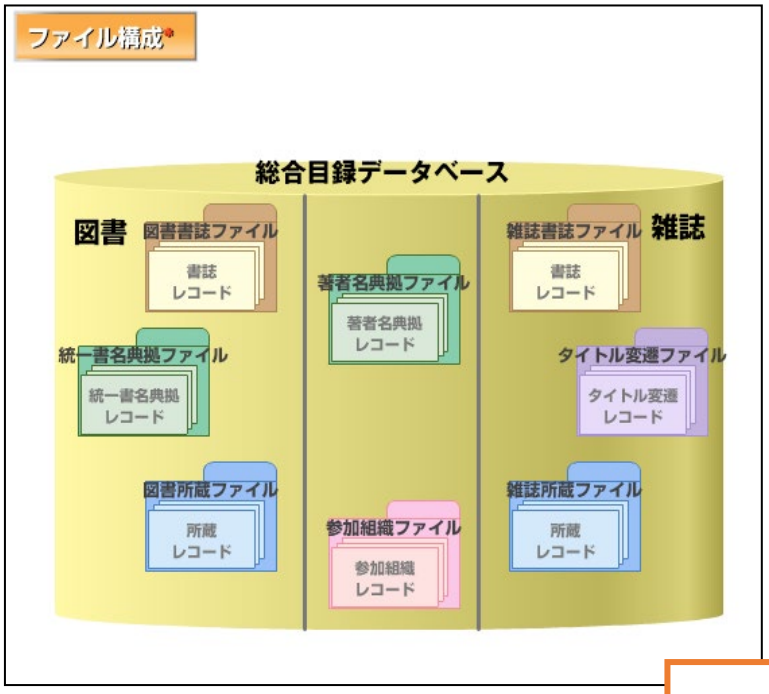
1項　全体構成



総合目録データベースでは、書名や著者名などの書誌情報と、請求記号などの所蔵情報、典拠情報などを別々の種類のデータに分けて記録しています。
この分けられたデータの単位をレコードと呼びます。

2節　総合目録データベースの構造

各種類のレコードは、それぞれファイルといういれものに収録しています。
総合目録データベースには、書誌ファイル、所蔵ファイル、著者名典拠ファイルなどがあります。

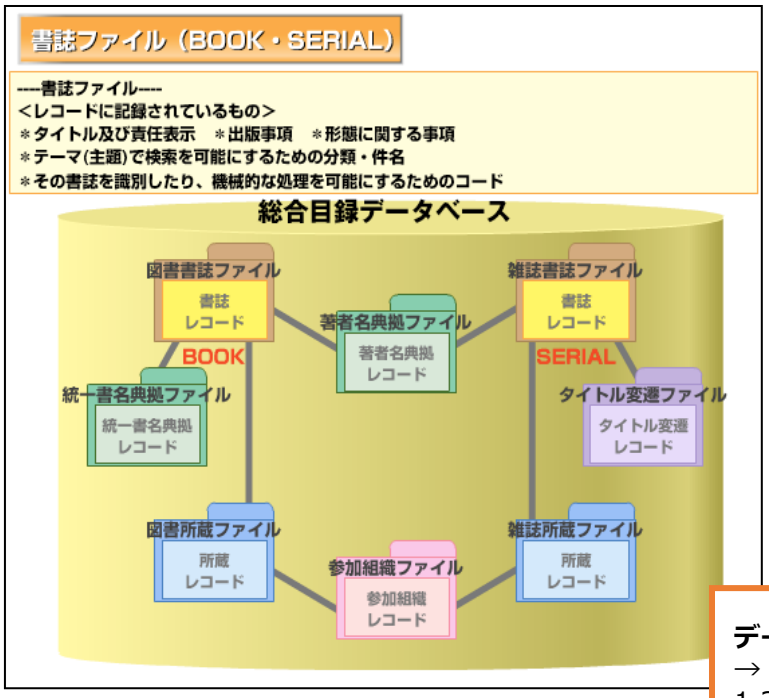


図書と雑誌の書誌レコードは別々の書誌ファイルに納められ、所蔵レコードも図書・雑誌それぞれの所蔵ファイルがあります。「統一書名典拠ファイル」は図書にのみ関係するファイルで、「タイトル変遷ファイル」は雑誌特有のファイルですが、「著者名典拠ファイル」は、図書、雑誌両方に関わっています。
「著者名典拠ファイル」の他に「参加組織ファイル」も両方から使用します。
これらのファイルで総合目録データベースは構成されています。

データベース構成図
→『目録情報の基準』第５版
1.3.3 総合目録データベース

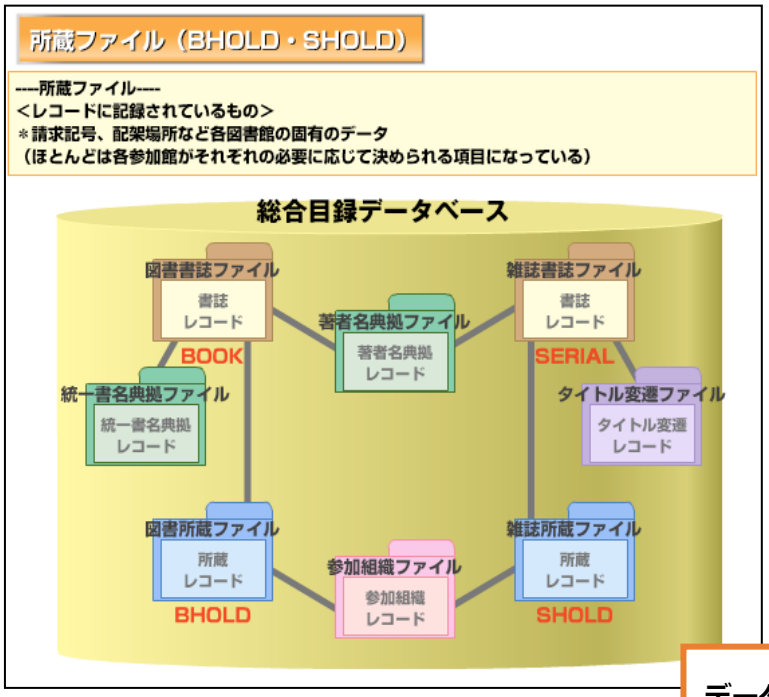
2節　総合目録データベースの構造

2項　ファイルとレコード



図書の書誌ファイルの名前は「BOOK」、雑誌の書誌ファイルの名前は「SERIAL」です。
書誌ファイルは書誌レコードを記録しているファイルです。
書誌レコードには、タイトル及び責任表示、出版事項、形態に関する事項などの他、テーマ（主題）で検索を可能にするための分類、件名、また、その書誌を識別したり機械的な処理を可能にするためのコード類が記録されています。

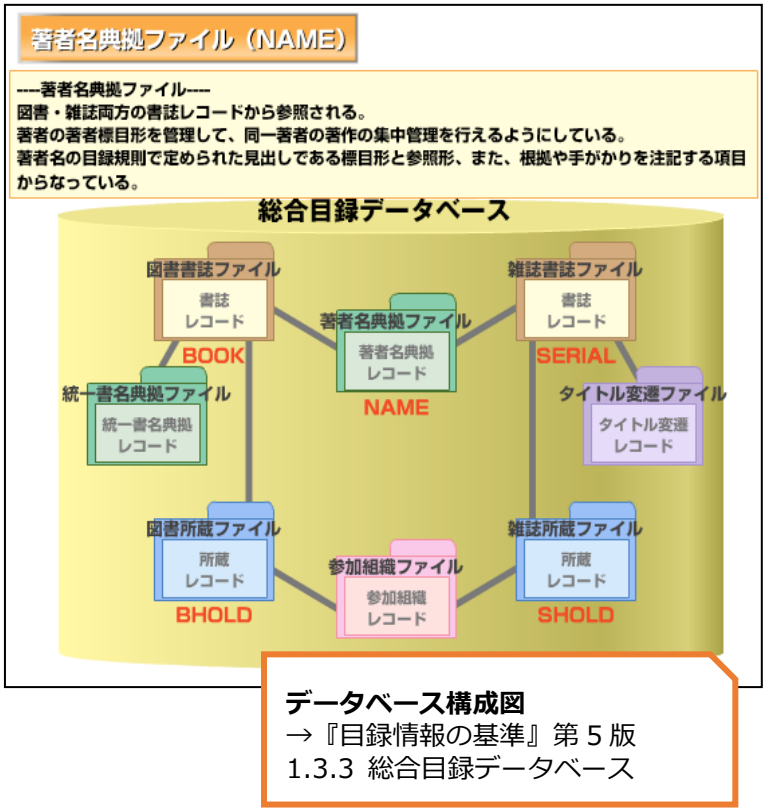
データベース構成図
→『目録情報の基準』第５版
1.3.3 総合目録データベース



図書の所蔵ファイルの名前は「BHOLD」、雑誌の所蔵ファイルの名前は「SHOLD」です。
所蔵ファイルは所蔵レコードを記録しているファイルです。所蔵レコードは請求記号、配架場所など各図書館の固有のデータによるレコードですから、ほとんどは各参加館がそれぞれの必要に応じて決められる項目になっています。
検索をした時、どのファイルのデータがヒットしたか見分けるために、これらのBOOK、SERIAL、BHOLD、SHOLDなどのファイル名を覚えておいてください。

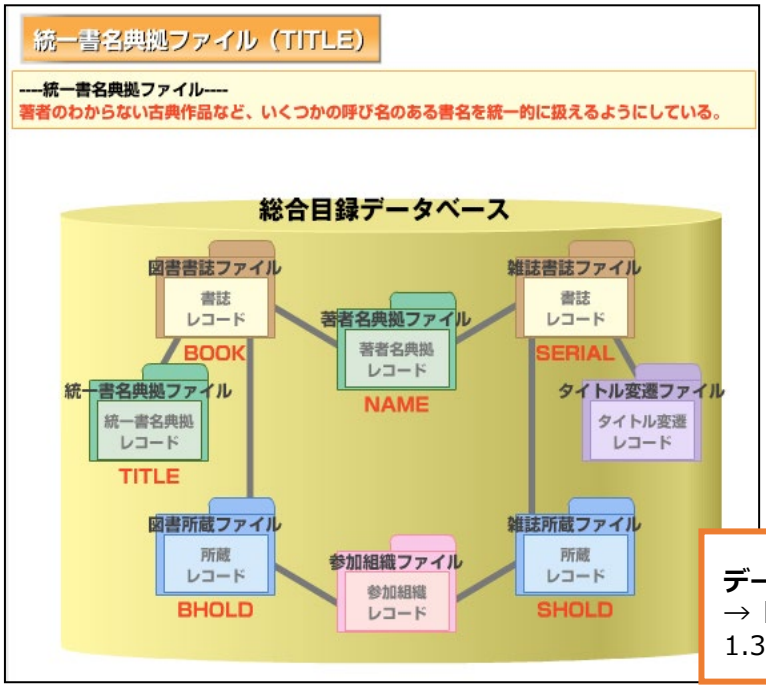
データベース構成図
→『目録情報の基準』第５版
1.3.3 総合目録データベース

2節　総合目録データベースの構造



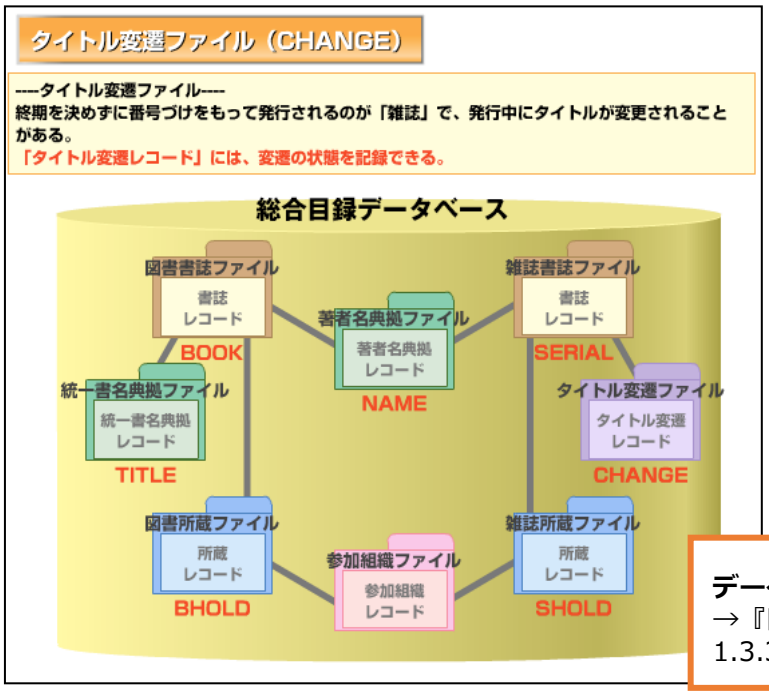
データベース構成図
→『目録情報の基準』第５版
1.3.3 総合目録データベース

著者名典拠ファイルは、図書・雑誌両方の書誌レコードから参照されます。
著者の著者標目形を管理して、同一著者の著作の集中管理を行えるようにしており、ファイルの名前は「NAME」です。
著者名典拠ファイルは著者名典拠レコードを記録しています。
例えば国立情報学研究所が編集した図書も雑誌も、国立情報学研究所の著者名典拠レコードと結びついて機能します。
著者名典拠レコードは、著者名の目録規則で定められた見出しである標目形と参照形、また、根拠や手がかりを注記する項目からなっています。



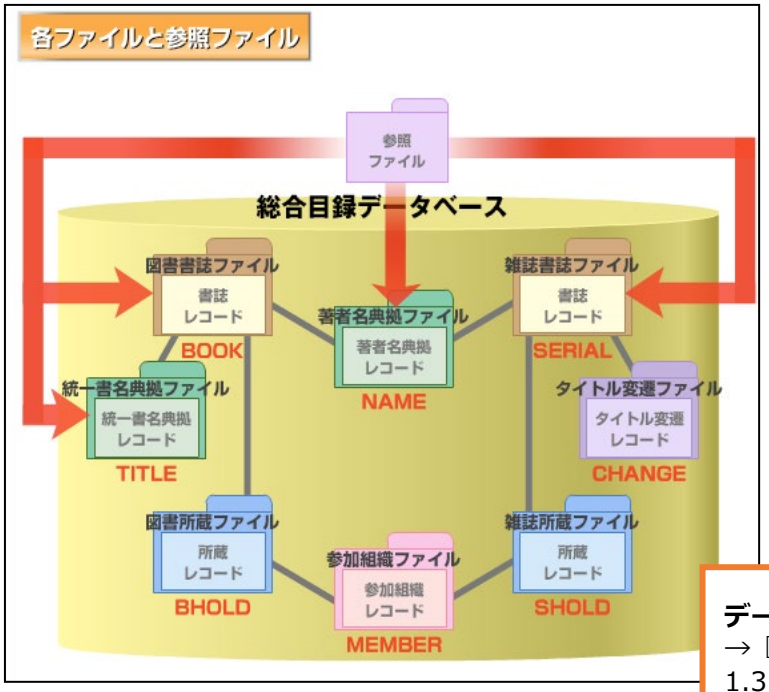
データベース構成図
→『目録情報の基準』第５版
1.3.3 総合目録データベース

統一書名典拠ファイルは「統一書名典拠レコード」を記録しています。
著者のわからない古典作品など、いくつかの呼び名のある書名を統一的に扱えるようにするためのファイルで、「TITLE」という名前です。



タイトル変遷ファイルは、タイトル変遷レコードを記録しています。
終期を決めずに番号づけをもって発行されるのが「雑誌」ですが、発行中にタイトルが変更されることがあります。
雑誌では、タイトル変遷ファイルで、その変更の前後を関係付けるようになっています。
タイトル変遷ファイルの名前は「CHANGE」です。

データベース構成図
→『目録情報の基準』第 5 版
1.3.3 総合目録データベース



このように総合目録データベースの中には、BOOK、SERIAL と呼ぶ書誌ファイル、BHOLD、SHOLD と呼ぶ所蔵ファイル、NAME、TITLE と呼ぶ典拠ファイル、CHANGE と呼ぶタイトル変遷ファイルと、参加館の情報が入った MEMBER と呼ぶ参加組織ファイルで構成されており、その外に参照ファイルが位置づけられていると考えてください。

データベース構成図
→『目録情報の基準』第 5 版
1.3.3 総合目録データベース

3節　図書に関するレコードとリンク

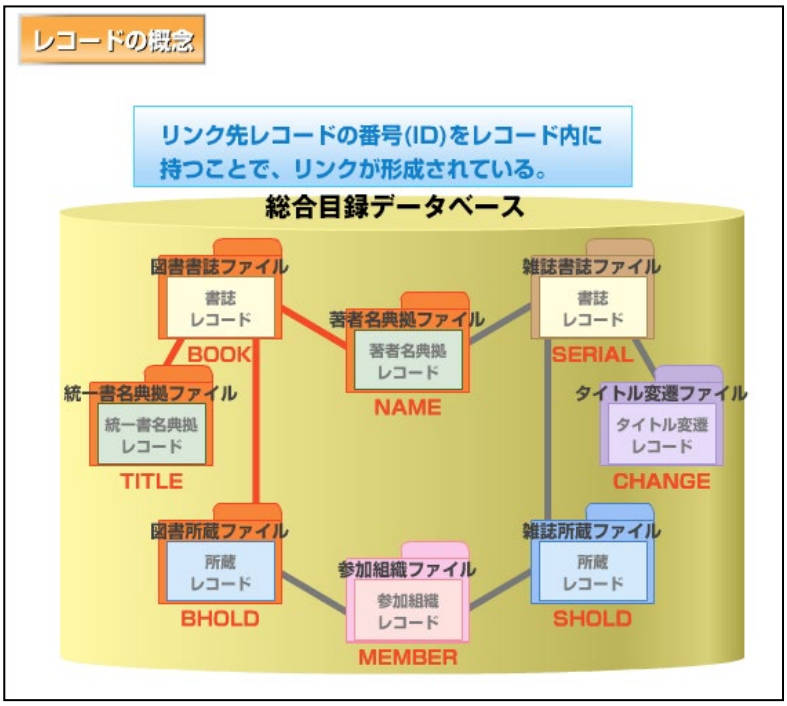
図書担当の方は、この節の学習は必須です。
(雑誌担当の方は、この節の学習は任意です。)

3節　図書に関するレコードとリンク

1項　図書に関するファイルとレコード
2項　レコード間の関係
~~3項　クイズ~~

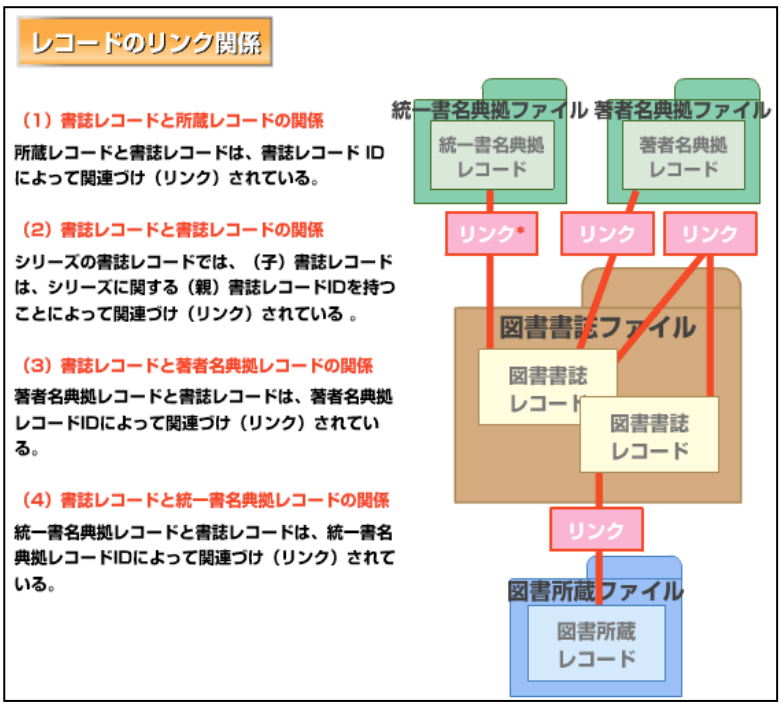
【学習目標】
1．図書に関係するファイルとレコードについて説明できる。
2．図書に関係するレコード間の関係が説明できる。

1項　図書に関するファイルとレコード

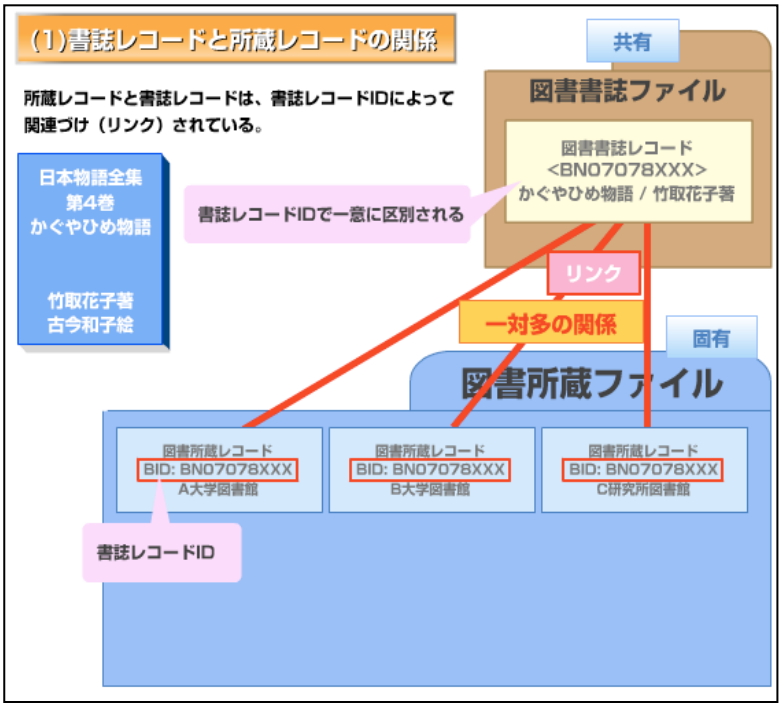


図書に関するレコードの概念はこの図のようになっています。個々の図書のタイトルや著者等を記録した書誌レコードは、BOOK ファイルの中に納められ、各所蔵レコード、各著者名典拠レコード、各統一書名典拠レコードもそれぞれファイルの中に納められています。
また、それぞれのレコードがリンクによって相互に関連付けられています。
リンクはリンク先レコードの番号（ID）をレコード内に持つことで、形成されています。

2項　レコード間の関係

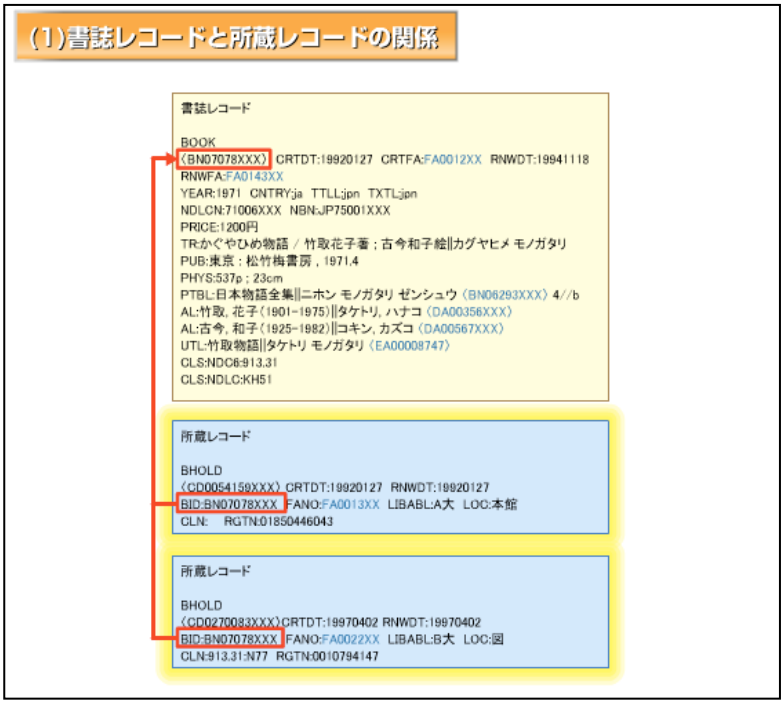


ここでリンク関係を整理してみましょう。
図書書誌レコードに関するリンクはここに示す4種類があります。
順番に見ていきましょう。

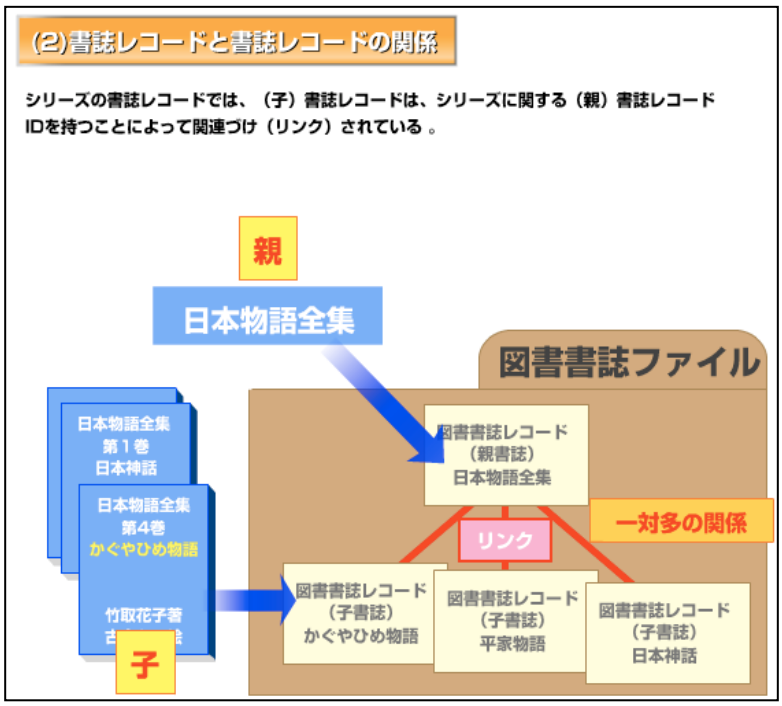


書誌レコードは共有のレコードで、所蔵レコードは各図書館の固有のレコードですから、1つの書誌レコードに複数の所蔵レコードが結びつく、つまり一対多の関係が一般的です。
所蔵レコードに書誌レコードIDをもつことで、リンクしています。

3 節　図書に関するレコードとリンク



各ファイルに納められているレコードがどのような関係になっているか、リンク関係について見て行きましょう。各レコード間のリンク関係の具体例はこの図のようになっています。
B で始まるアルファベット 2 文字と 8 桁の数字が、書誌レコードの ID です。
所蔵レコードを見てみると、BID フィールドにこの書誌レコード ID を持っています。すなわちこの書誌レコードと所蔵レコードはリンクしています。この図からは 2 箇所で所蔵していることがわかります。

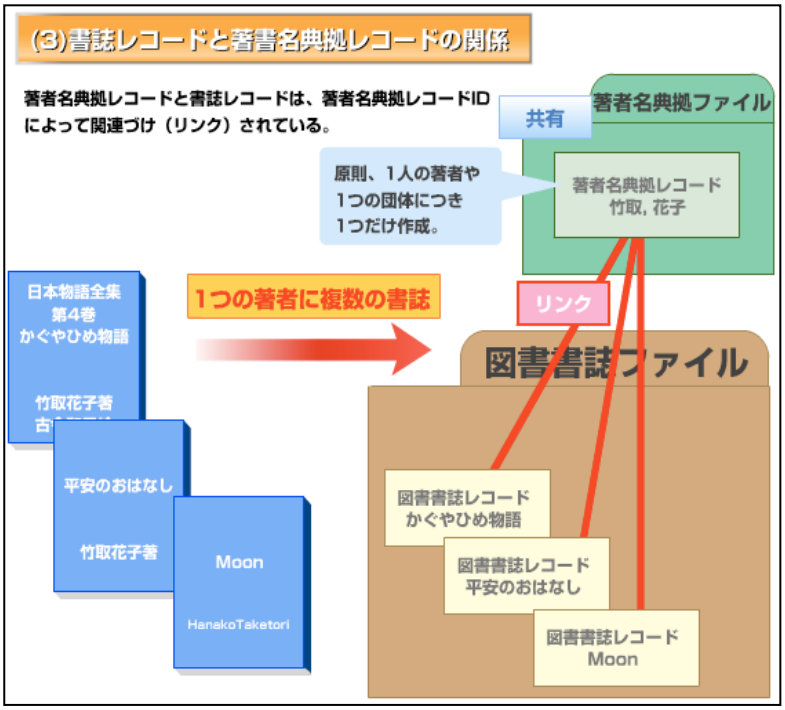


シリーズの図書の場合、シリーズについて記述した親書誌レコードと、個別の図書の子書誌レコードを作ってリンクさせます。
例えば『日本物語全集』の第４巻『かぐやひめ物語』は、『日本物語全集』をタイトルとした書誌と、『かぐやひめ物語』をタイトルとした書誌の２つの書誌記述が考えられます。
NACSIS-CAT では、これをそれぞれ書誌レコードとして作成し、リンクによって関係づけ、書誌構造を表現します。このようなシリーズ物などでは、親書誌レコードに、各巻の子書誌レコードがリンク形成されることになりますので、これも一対多のリンクとなります。

書誌構造リンクの任意化
→『目録情報の基準』第 5 版
4.3.1 書誌構造の表現

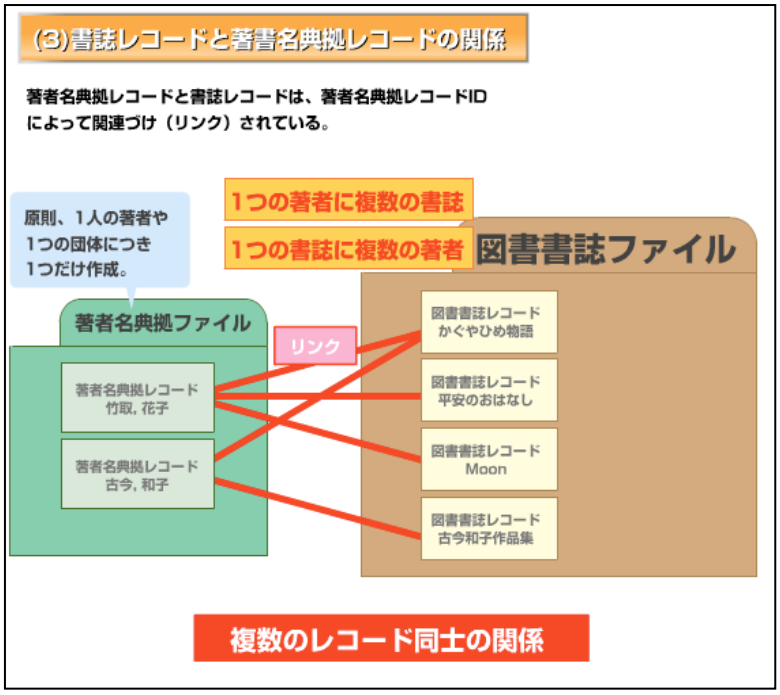
3節　図書に関するレコードとリンク

各レコード間のリンク関係の具体例はこの図のようになっています。
この資料は、「日本物語全集」というシリーズの中の１冊なので、PTBL というフィールドに「日本物語全集」という親書誌のタイトルと書誌レコード ID が記入され、親書誌レコードとリンクしているのです。



次に、書誌レコードと著者名典拠レコードの関係を考えてみましょう。
著者名典拠レコードも書誌レコードと同様共有のレコードで、原則として１人の著者や１つの団体につき１つだけ作成します。
例えば、「かぐやひめ物語」「平安のおはなし」「Moon」のそれぞれの書誌レコードは、その著者である竹取花子の著者名典拠レコードとリンクしています。

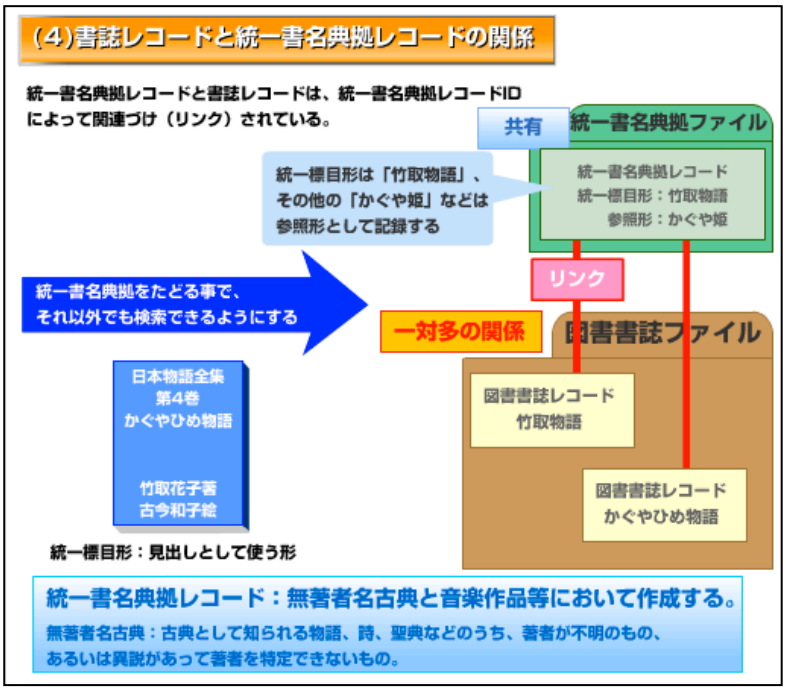
3節　図書に関するレコードとリンク



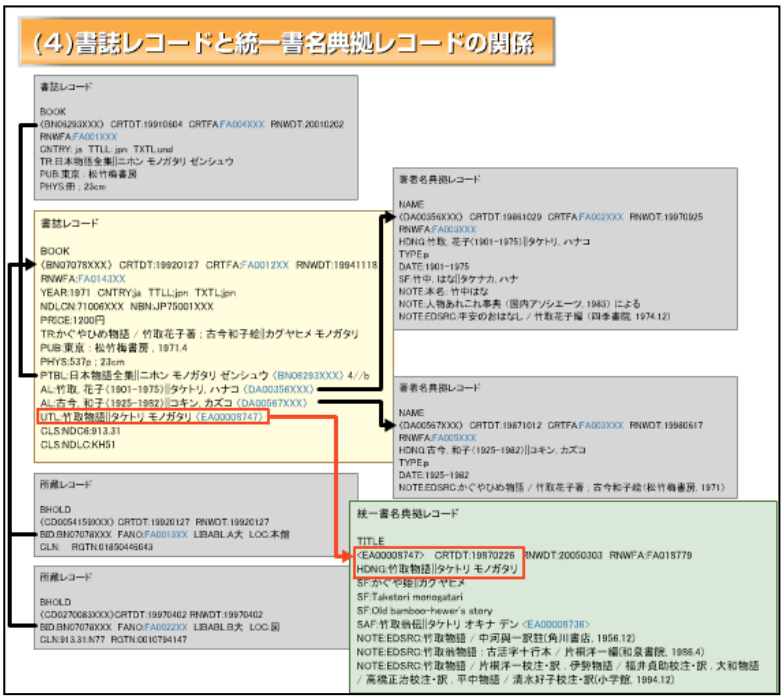
このように書誌レコードと著者名典拠レコードの関係は、１つの著者名典拠レコードに複数の書誌レコードがリンクし、１つの書誌レコードに複数の著者名典拠レコードがリンクするといったことがあります。
通常、この図のような複数のレコード同士のリンク関係になります。

各レコード間のリンク関係の具体例はこの図のようになっています。
書誌レコードの中の AL フィールドには、著者名　竹取花子や古今和子の著者名典拠レコード ID=DA から始まる８桁の番号が表示されています。
書誌レコード内に著者名典拠レコード ID を持つことで、著者名典拠レコードとリンクが形成されています。

3節　図書に関するレコードとリンク



書誌レコードと統一書名典拠レコードの関係について見てみましょう。
統一書名典拠レコードも共有のレコードです。
例えば、「竹取物語」、「かぐや姫」の書誌レコードは、同じ統一書名典拠レコードとリンクしています。その統一標目形は竹取物語です。
つまり、竹取物語の統一書名典拠レコードからのリンクを辿ることで、「竹取物語」、「かぐや姫」などタイトルが異なる場合でも、同じ内容の著作として一覧することができるようになるのです。
統一書名典拠レコードと書誌レコードの関係も、一対多のリンク関係になります。
統一書名典拠レコードは、NACSIS-CAT ではいわゆる無著者名古典と音楽作品等において作成することになっています。



各レコード間のリンク関係の具体例はこの図のようになっています。
書誌レコードの UTL フィールドに、統一書名標目である「竹取物語」とその統一書名典拠 ID をもつ事により、リンクしていることが分かります。

4節　雑誌に関するレコードとリンク

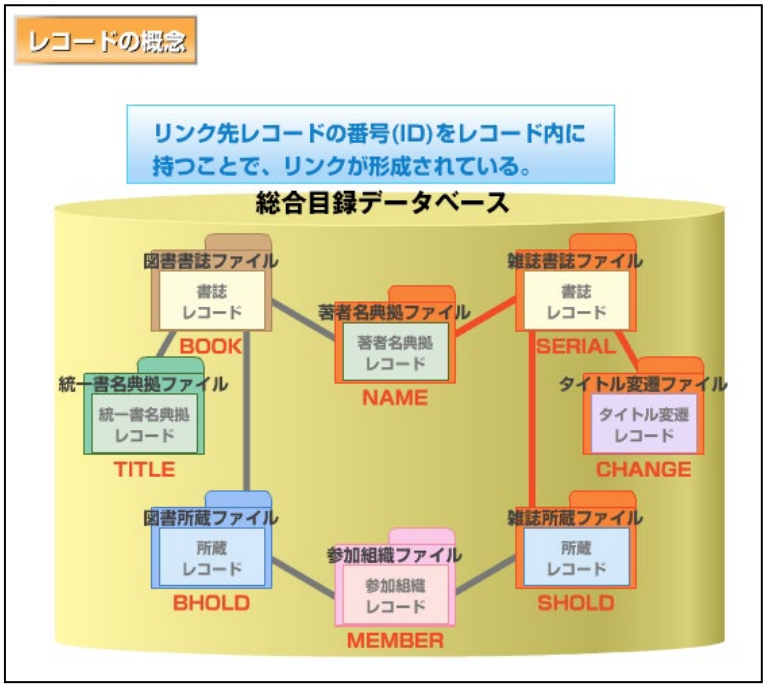
雑誌担当の方は、この節の学習は必須です。
（図書担当の方は、この節の学習は任意です。）

4節　雑誌に関するレコードとリンク

1項　雑誌に関するファイルとレコード
2項　レコード間の関係
~~3項　クイズ~~

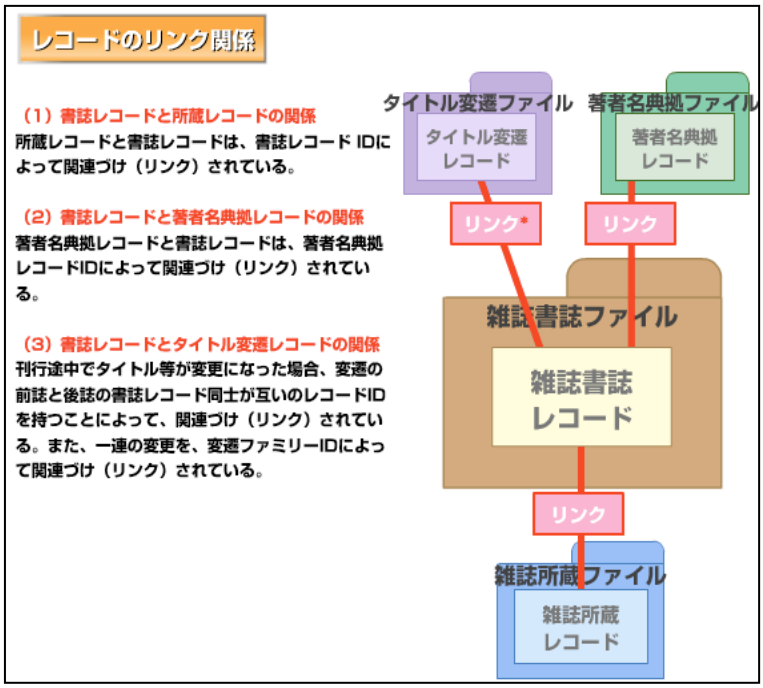
【学習目標】
1．雑誌に関係するファイルとレコードについて説明できる。
2．雑誌に関係するレコード間の関係が説明できる。

1項　雑誌に関するファイルとレコード

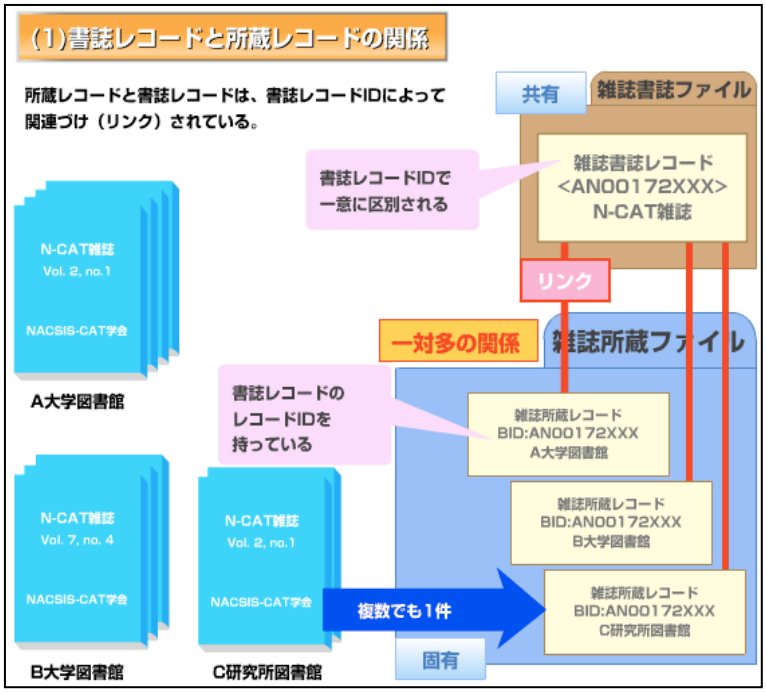


雑誌に関するレコードの概念はこの図のようになっています。個々の雑誌のタイトルや著者等を記録した書誌レコードは、SERIAL ファイルの中に納められ、各所蔵レコード、各著者名典拠レコード、各タイトル変遷レコードもそれぞれファイルの中に納められています。また、それぞれのレコードがリンクによって相互に結びついています。

2項　レコード間の関係

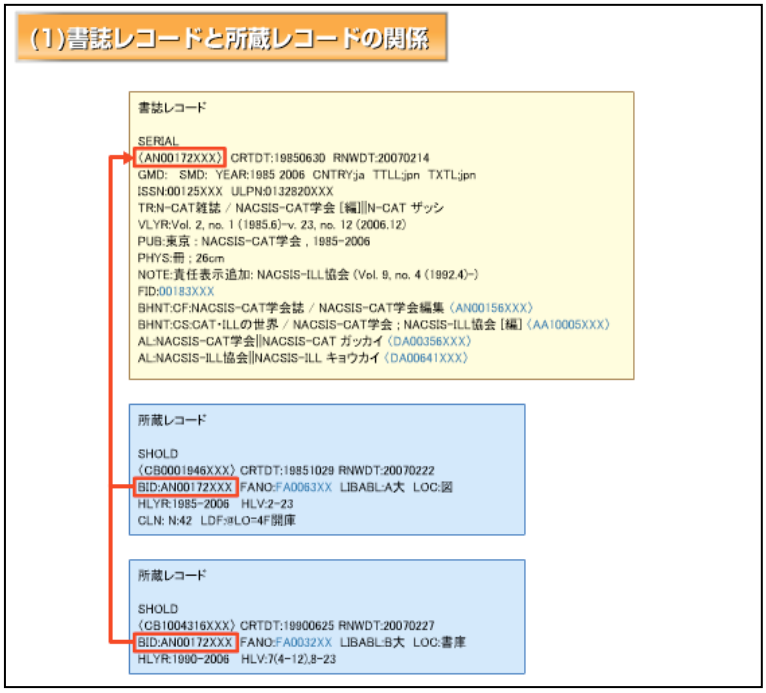


ここでリンク関係を整理してみましょう。
雑誌書誌レコードに関するリンクはここに示す3種類があります。
順番に見ていきましょう。

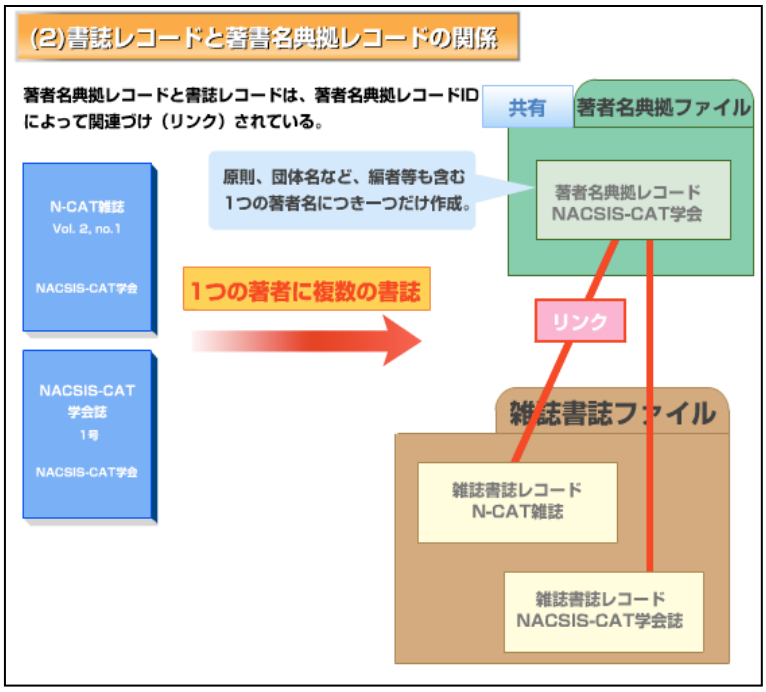


書誌レコードは共有のレコードで、所蔵レコードは各図書館の固有のレコードですから、1つの書誌レコードに複数の所蔵レコードが結びつくことが一般的です。
所蔵レコードに書誌レコードIDをもつことで、リンクしています。
雑誌は同じタイトルごとにまとめて、1つの書誌レコードを作成します。
所蔵レコードも同様です。

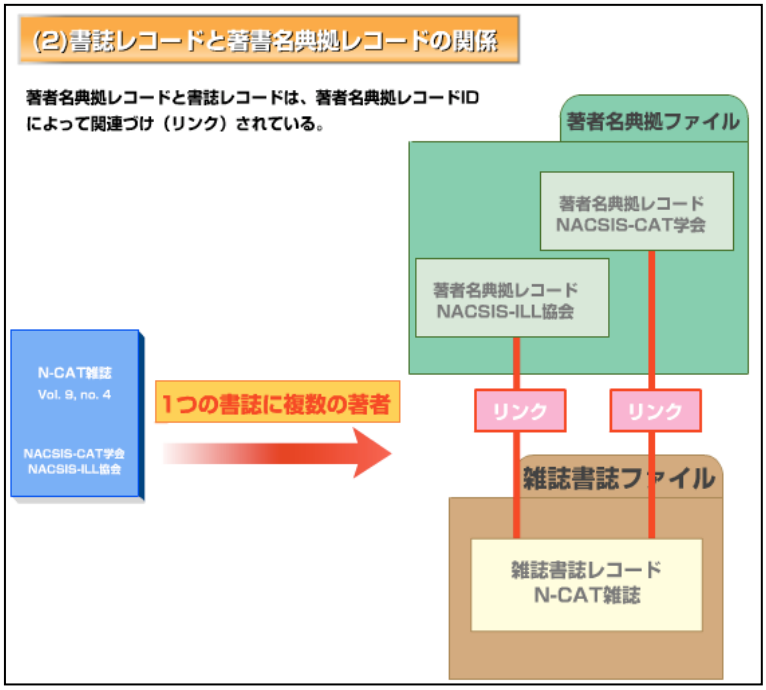
4節　雑誌に関するレコードとリンク



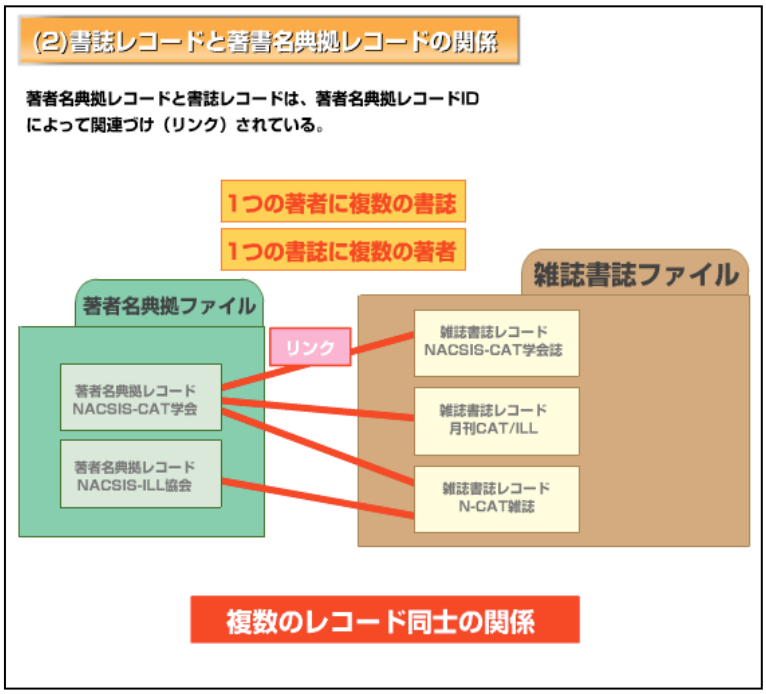
各ファイルに納められているレコードがどのような関係になっているかリンク関係について見て行きましょう。各レコード間のリンク関係の具体例はこの図のようになっています。
書誌レコード ID は AN または AA で始まる 8 桁の番号です。この雑誌の書誌レコード ID を、所蔵レコードの BID フィールドに記録していることでリンクしているのです。
この雑誌がこれらの図書館で所蔵されていることが分かります。



次に、書誌レコードと著者名典拠レコードの関係を考えてみましょう。
著者名典拠レコードも書誌レコードと同様共有のレコードで、原則として団体名など編者等も含む 1 つの著者名につき 1 つだけ作成します。
例えば「N-CAT 雑誌」「NACSIS-CAT 学会誌」のそれぞれの書誌レコードは、その著者である NACSIS-CAT 学会という同じ著者名典拠レコードとリンクしています。

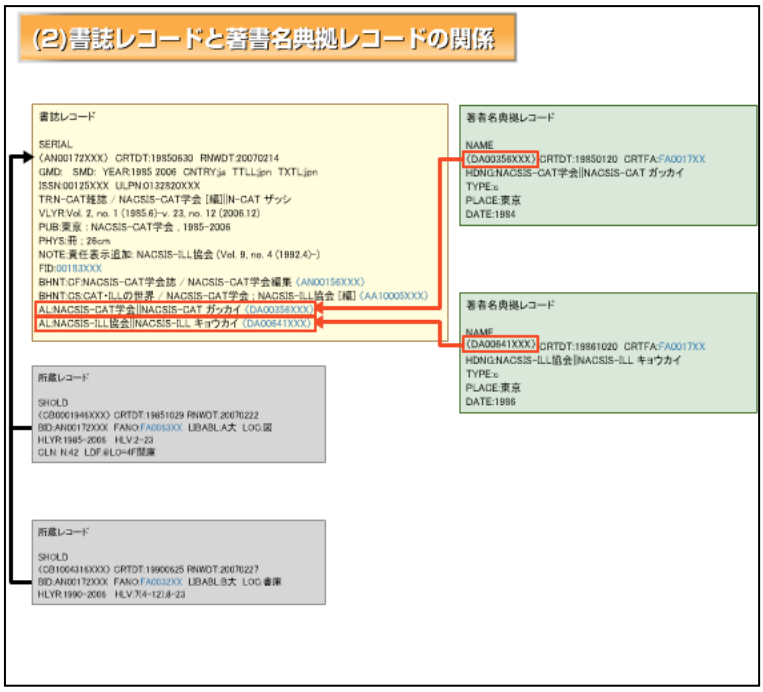


また「N-CAT 雑誌」の Vol.9 から「NACSIS-CAT 学会」と「NACSIS- ILL 協会」の共編になっていました。
このような場合、書誌レコードは、NACSIS-CAT 学会、NACSIS-ILL 協会両方の著者名典拠レコードとリンクしています。

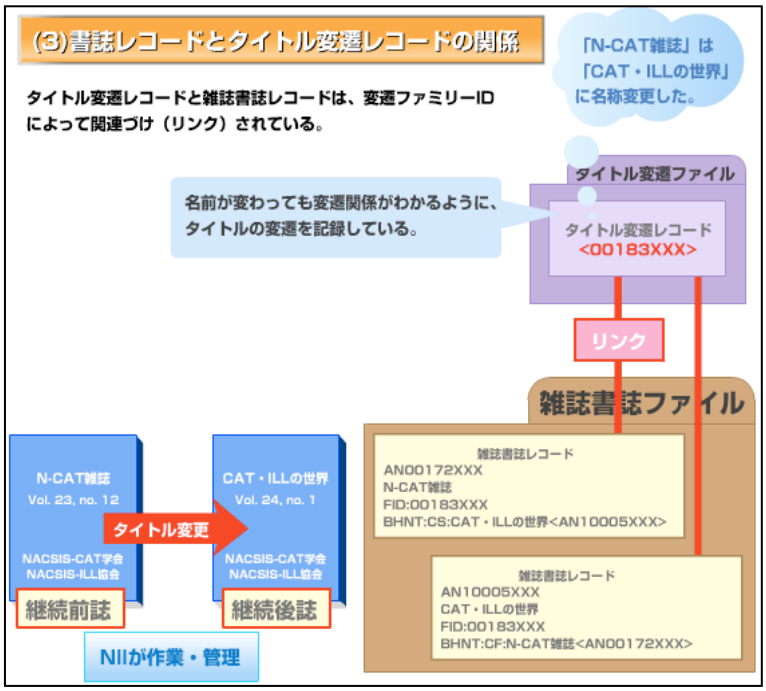


このように書誌レコードと著者名典拠レコードの関係は、１つの著者名典拠レコードに複数の書誌レコードがリンクしていたり、１つの書誌レコードに複数の著者名典拠レコードがリンクするといったことがあります。
通常この図のような複数のレコード同士のリンク関係になります。

4節　雑誌に関するレコードとリンク

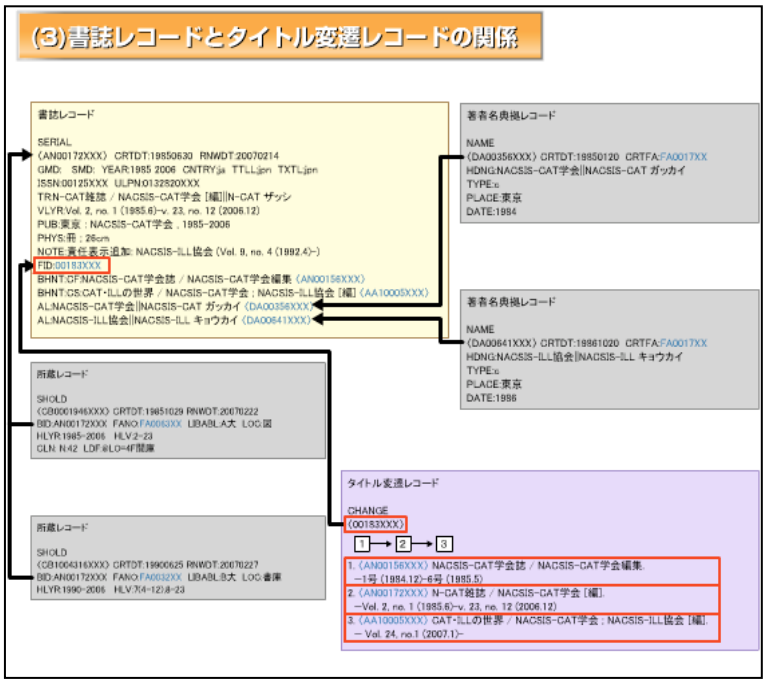


各レコード間のリンク関係の具体例はこの図のようになっています。
書誌レコードの中の AL フィールドには、著者名 NACSIS-CAT 学会と Vol.9 から追加となった NACSIS-ILL 協会にあたる著者名典拠レコード ID が表示されており、それぞれが著者名典拠レコードにリンクしていることがわかります。
書誌レコード内に著者名典拠レコード ID を持つことで、著者名典拠レコードとリンクが形成されています。

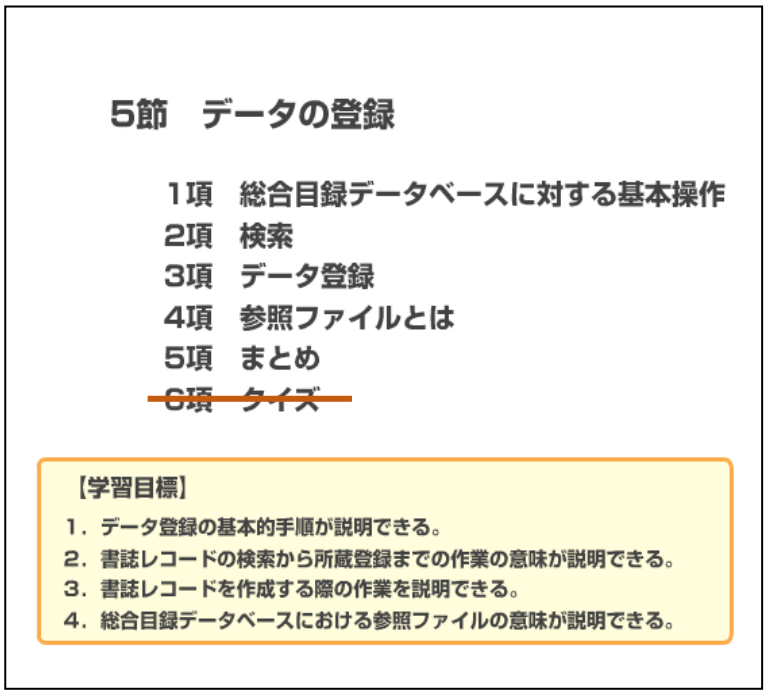


雑誌の書誌レコードの特徴は、タイトルが変遷する場合があることです。
タイトル変遷レコードの中では変遷関係が図示され、一連の雑誌の書誌レコード ID が記録されます。
書誌レコードの方には FID と呼ばれるフィールドがあり、ここに変遷ファミリーID を持つことでリンク関係を表しています。
また、変遷関係がある書誌レコードの BHNT フィールドには、継続前誌と継続後誌の書誌レコード ID も記録されます。
雑誌の変遷関係については、参加館の報告をもとに国立情報学研究所がリンク形成の作業を行い管理しています。

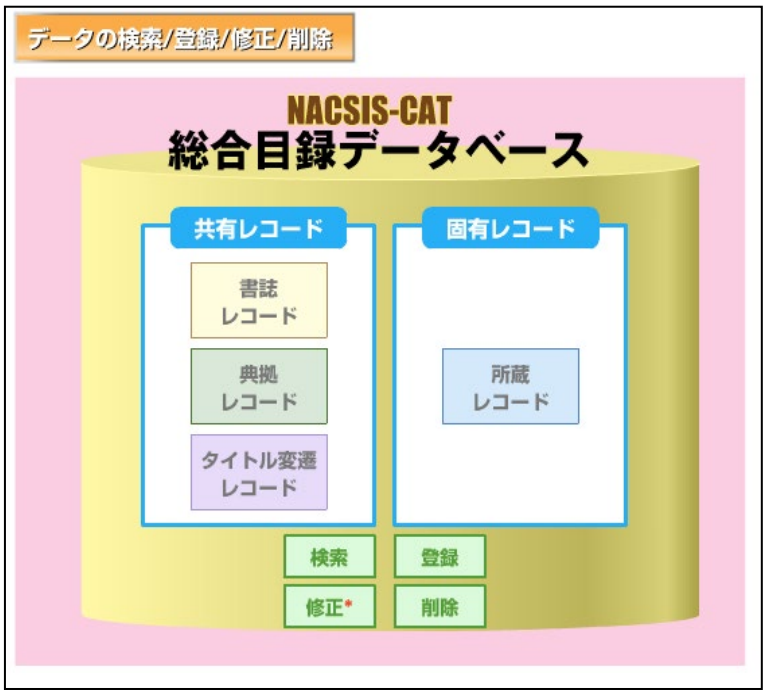
4節　雑誌に関するレコードとリンク



各レコード間のリンク関係の具体例はこの図のようになっています。
タイトル変遷レコードは、雑誌名の変遷を、継続、吸収、派生が分かるように図式化してあります。
書誌レコードから変遷ファミリーID をたどってタイトル変遷レコードを参照することができます。
このタイトル変遷レコードから、この雑誌はもともと、「NACSIS- CAT 学会誌」という名前だったものが、「N-CAT 雑誌」という名前になり、「CAT・ILL の世界」という名前に変わったことが分かります。

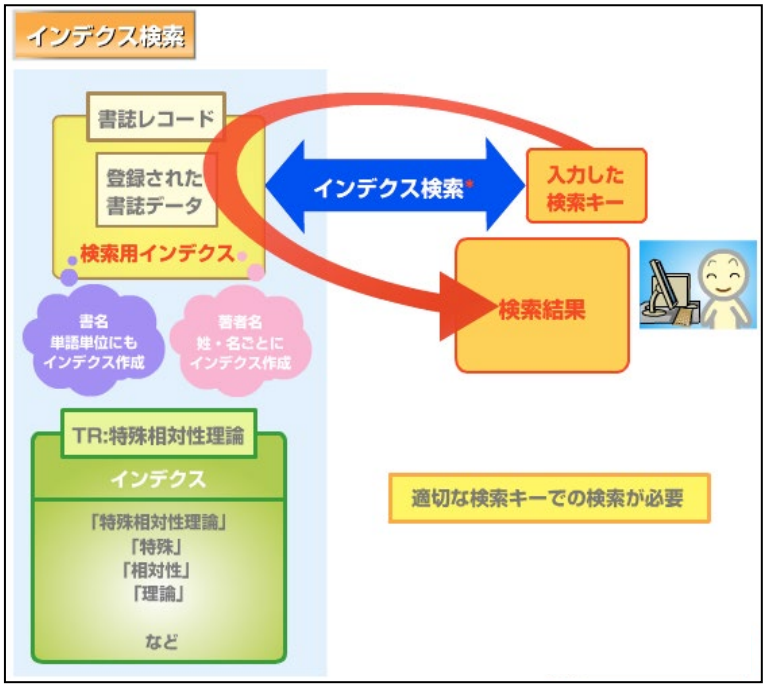


1項　総合目録データベースに対する基本操作

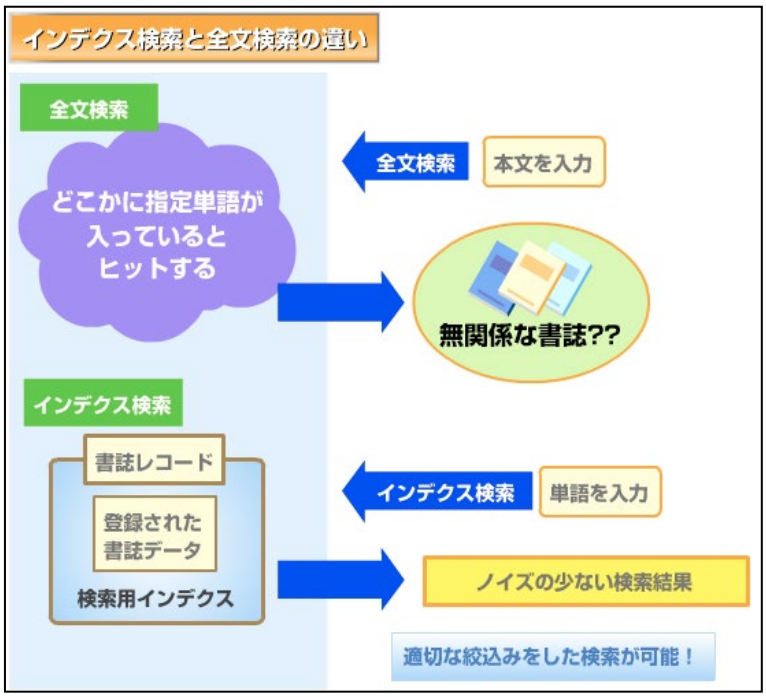


総合目録データベースに対する NACSIS-CAT の基本操作としては、データの検索、登録、修正、削除があります。
書誌レコード、典拠レコード、タイトル変遷レコードは参加館で共有するレコードです。共有レコードの操作は慎重にしなければなりません。
共有レコードに対しても参加機関は、検索、登録、修正を行いますが、修正・削除には一定のルールがあります。
参加館の都合だけで修正したり、所蔵レコードを削除するときに、総合目録データベースの書誌レコードまで削除したりしないよう注意しましょう。
修正、削除に関するルールは後続のコースでそれぞれ学習してください。
所蔵レコードは参加館固有のレコードなので、検索、登録、修正の他、削除も参加館の事情で行うことができます。

2項　検索

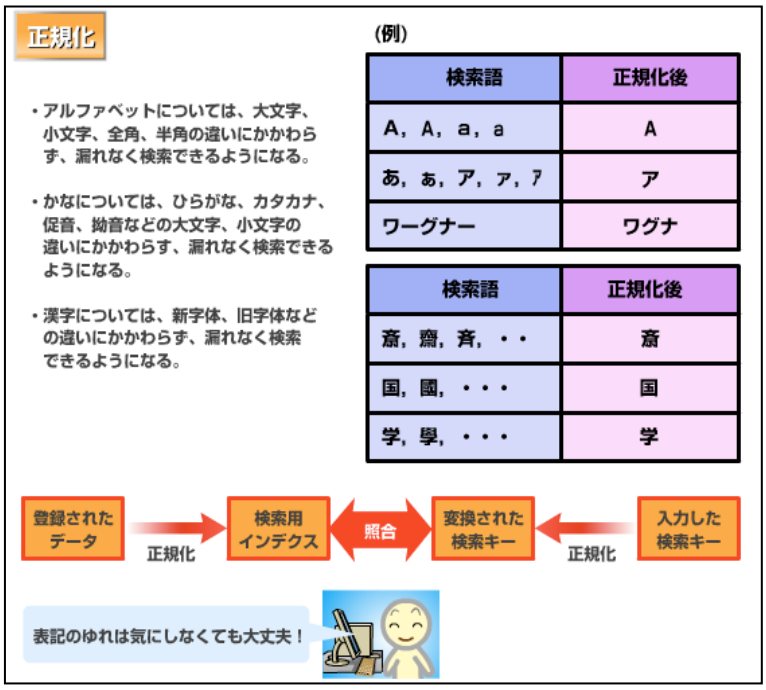


NACSIS-CAT での検索方法を紹介しておきましょう。
NACSIS-CAT では、書誌レコードから作成したインデクスを持っています。
たとえば、書名は単語単位にもインデクスを作成しています。
著者名については姓・名ごとにインデクスを作成しています。
この検索方式を、「インデクス検索」と呼びます。
これらの作成された検索用インデクスと入力した検索キーを照合することにより検索を行っています。
NACSIS-CAT のインデクス検索は、このような仕組みになっているので適切な検索キーで検索をする必要があります。



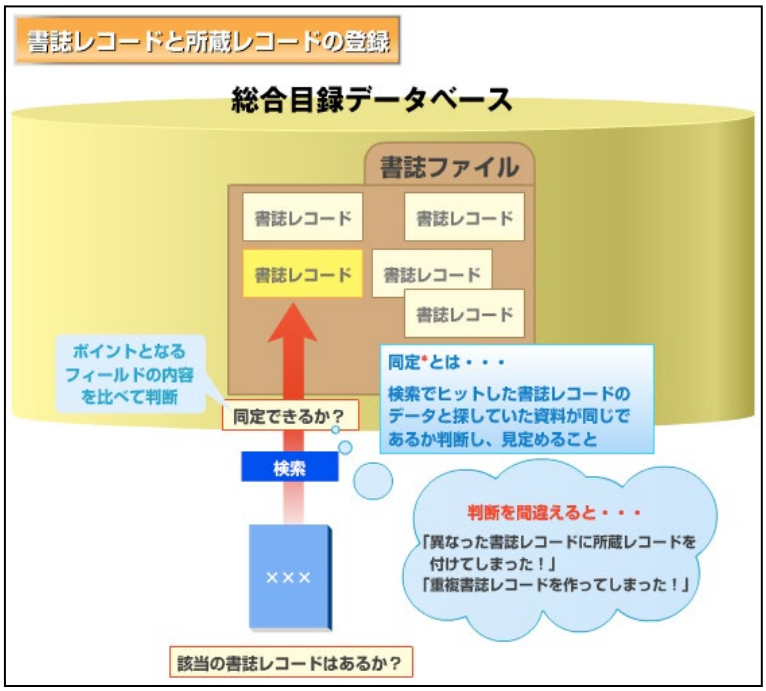
全文検索は、本文などの文字列全体を検索対象とします。
しかし、検索結果に無関係なノイズが含まれることが多く、特定の書誌を探す時には向いていません。
一方、インデクス検索では、キーワードと検索用インデクスが一致しない場合は、検索できません。
しかし、全文検索よりもノイズが含まれることは少なくなります。そのため、適切な絞込みをした検索ができるのです。

5 節　データの登録

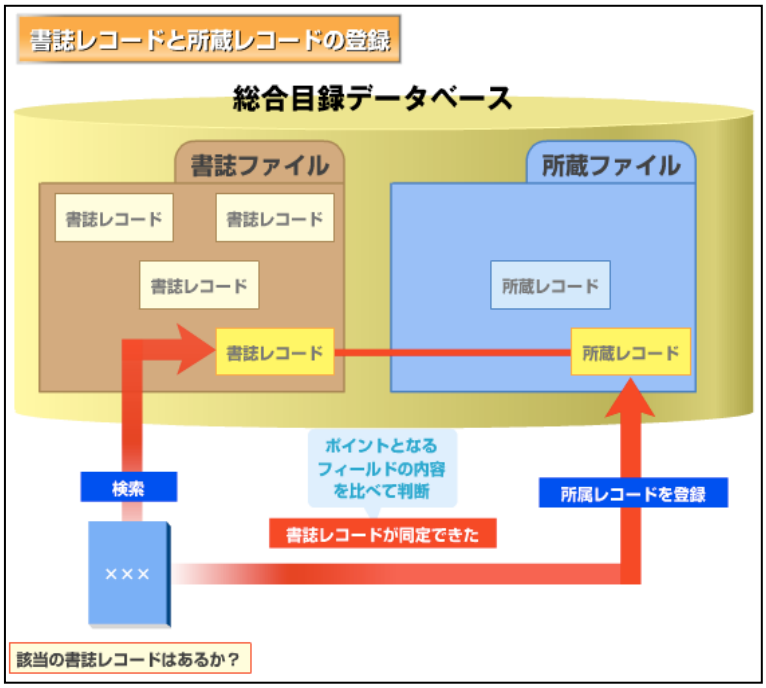


また、NACSIS-CAT では入力したキーワードの「表記のゆれ」による検索もれを防ぐために、正規化という処理を行っています。
正規化では、「アルファベットの大文字・小文字、全角・半角の違い」、「ひらがな・カタカナの違い、促音・拗音などのかな文字の大小の違い」、「漢字の新字体・旧字体の違い」などを統一しています。
正規化は、登録されたデータからインデクスを作成する際に行われます。また、入力した検索キーも正規化により変換されます。
このため、キーワードの「表記のゆれ」を気にせずに、検索を行うことができるのです。

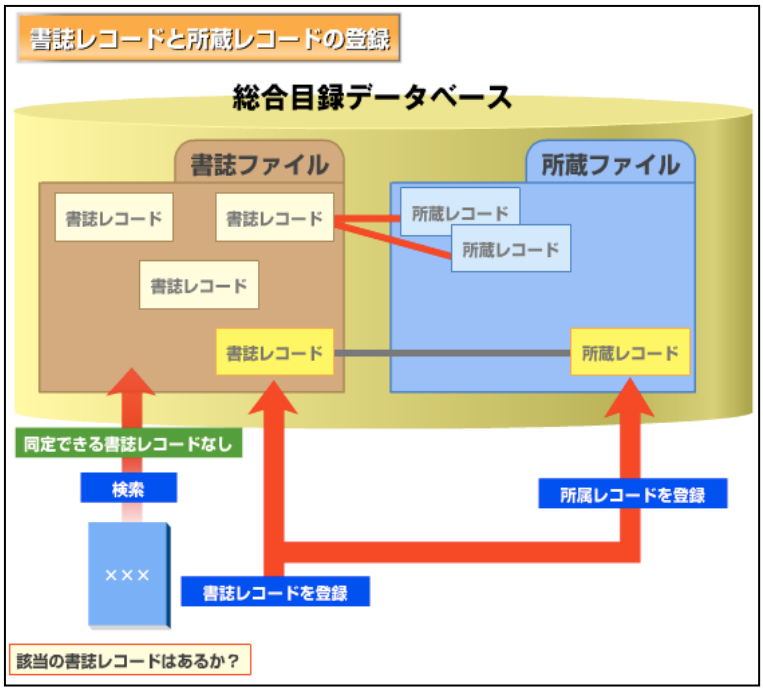
3 項　データ登録



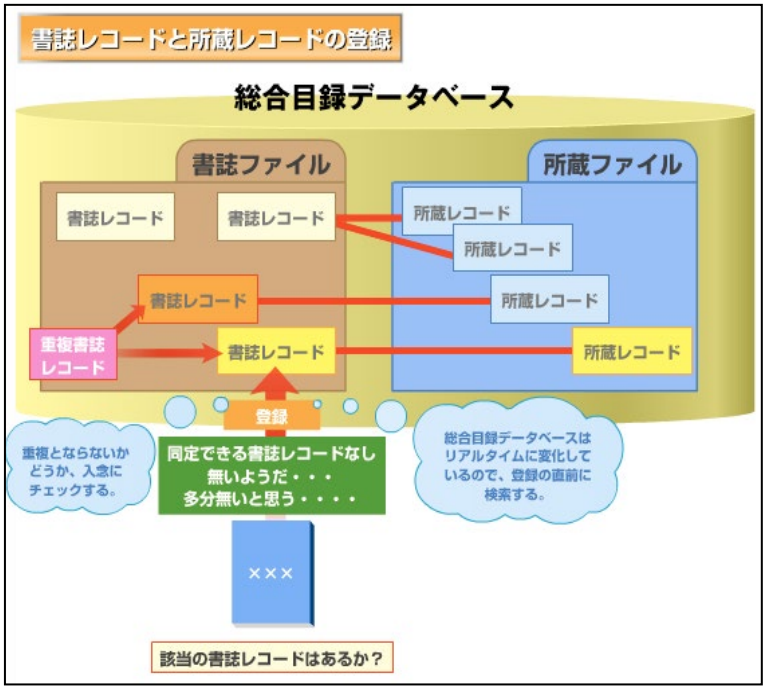
次に書誌レコードと所蔵レコードの登録について学習しましょう。
NACSIS-CAT による資料の登録では、まず初めに、資料の書誌レコードが既に総合目録データベースに存在するかどうかを調べます。
検索でヒットした書誌レコードのデータと、探していた資料のものが同じであるか判断して見定めることを同定といいます。
この判断を間違えると、異なった書誌レコードに所蔵レコードを付けてしまったり、重複書誌レコードを作ってしまったり、ということがおこります。
同定のためには、ポイントとなるフィールドの内容を比べて判断します。



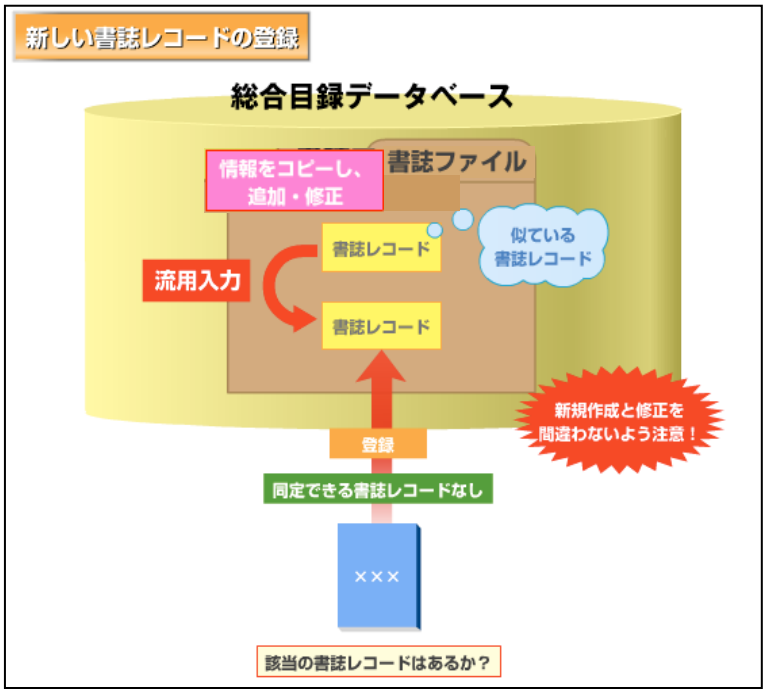
書誌レコードを同定したら、その書誌レコードに対して「この資料は自分の図書館にもあります」という所蔵レコードの登録のみを行います。
このように所蔵レコードを登録すると書誌レコードと所蔵レコードがリンクします。書誌レコードを手際よく、正確に検索できるようになると所蔵登録作業の効率が上がります。



もし、総合目録データベースに同定できる書誌レコードが存在しなかった場合は、新規に資料に関する情報を入力し、書誌登録してから所蔵レコードを登録します。



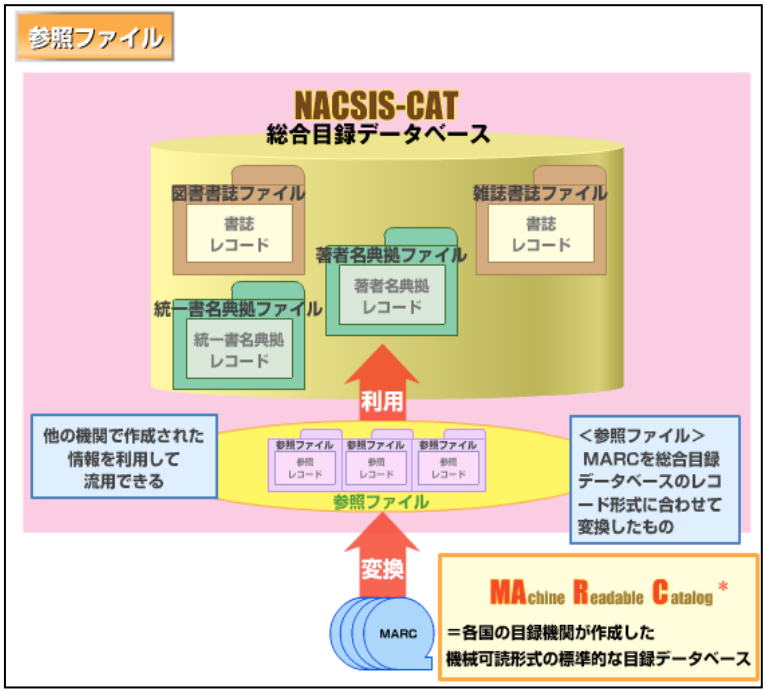
よく調べずに「この資料に同定できる書誌レコードが無いようだ」と思い込んで書誌レコードを登録してしまうと、重複書誌レコードを作ってしまうことになります。重複書誌レコードが存在すると、目録情報を使おうとする人にとっていろいろな問題が出てきます。
書誌レコードの登録時には重複とならないかどうか、入念にチェックしましょう。総合目録データベースはリアルタイムで変化しているので、登録の直前に検索するという注意も必要です。
「同定できる書誌レコードが無い」という判断をするためには、いろいろな検索の仕方を試みます。検索の仕方については後続のコースで学習してください。



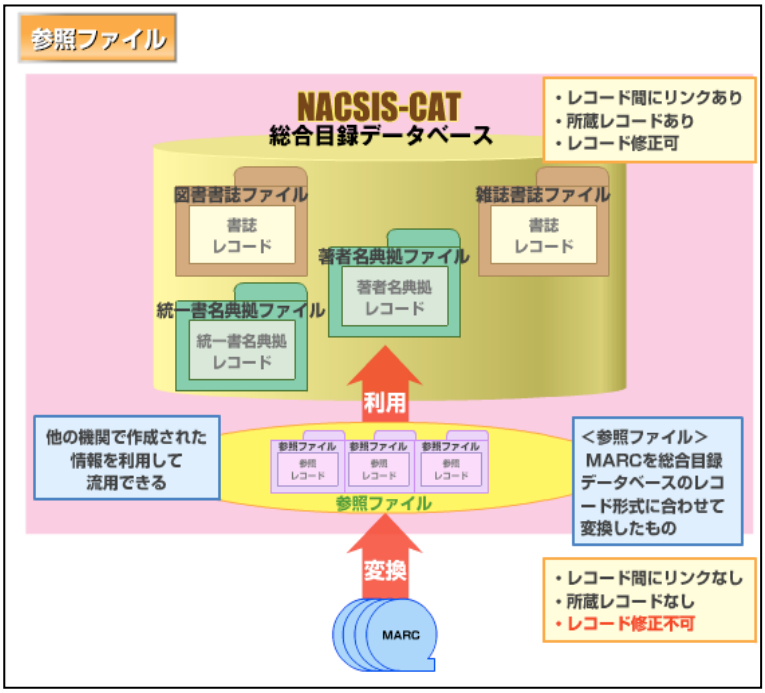
基本的に、書誌レコードが見つからないときには新しく書誌レコードを登録します。
しかし、いつでも新規書誌レコードの内容をすべて入力しなければならないわけではありません。似た書誌レコードがあればその情報をコピーし、異なる部分を修正し、不足するデータを入力して書誌レコードを登録することができます。これを流用入力といいます
流用入力による書誌レコード作成と既存レコードの修正を間違わないように注意が必要です。

システム登録
→『目録情報の基準』第5版
4.7 システム登録

4項　参照ファイルとは



NACSIS-CAT では書誌レコードや典拠レコードの作成にあたり、他の機関で作成された目録データベース(=MARC)の情報を利用して流用入力できるようにしています。これが、「参照ファイル」です。参照ファイルは、MARC から総合目録データベースのフォーマットに変換し、NACSIS－CAT から利用しやすいよう準備されています。
この参照ファイル中のレコードを参照、コピーして利用することにより、書誌レコードや典拠レコードを作成する場合の入力作業が大幅に軽減されます。



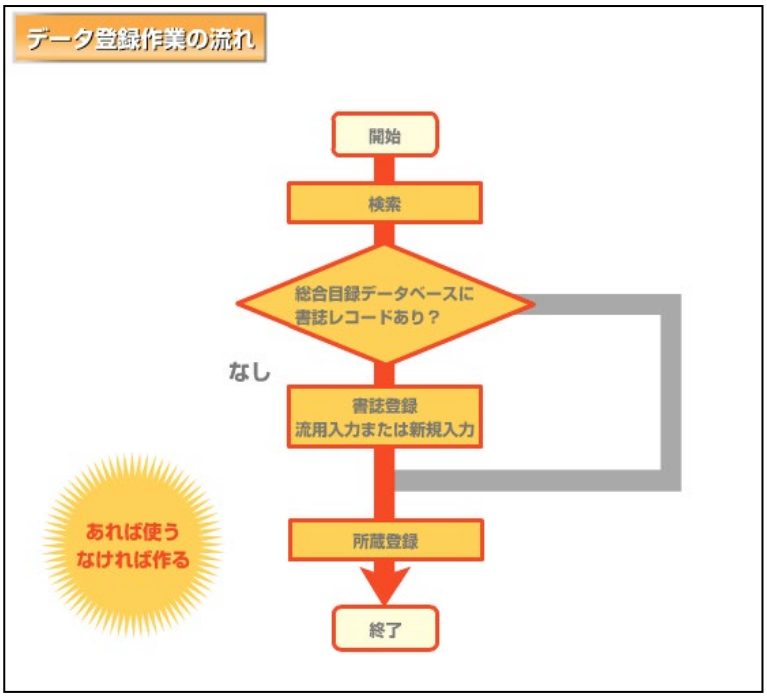
ただし、参照ファイルのレコードはあくまで総合目録データベースにレコードを作成する際の参照データですので、次の点で総合目録データベースのレコードと異なります。
◆レコード間のリンクは存在しません。
◆所蔵レコードがありません。
◆参照ファイルのレコード自体を修正することはできません。

PREBOOK データセット
→『目録情報の基準』第5版
4.7 システム登録

5節　データの登録

MARC とは Machine Readable Cata- log の略で、各国の目録機関が作成した機械可読形式の標準的な目録データベースです。
代表的なものには、国立国会図書館作成の JAPANMARC、図書館流通センターの TRC MARC、アメリカ議会図書館作成の USMARC などがあります。総合目録データベースのファイルの種類により、ここに挙げたような参照ファイルが利用できます。
また近年、オンラインで一部の海外の書誌ユーティリティとの接続が可能となり、直接 MARC を検索利用することが可能となっています。これを目録システム間リンクといいます。

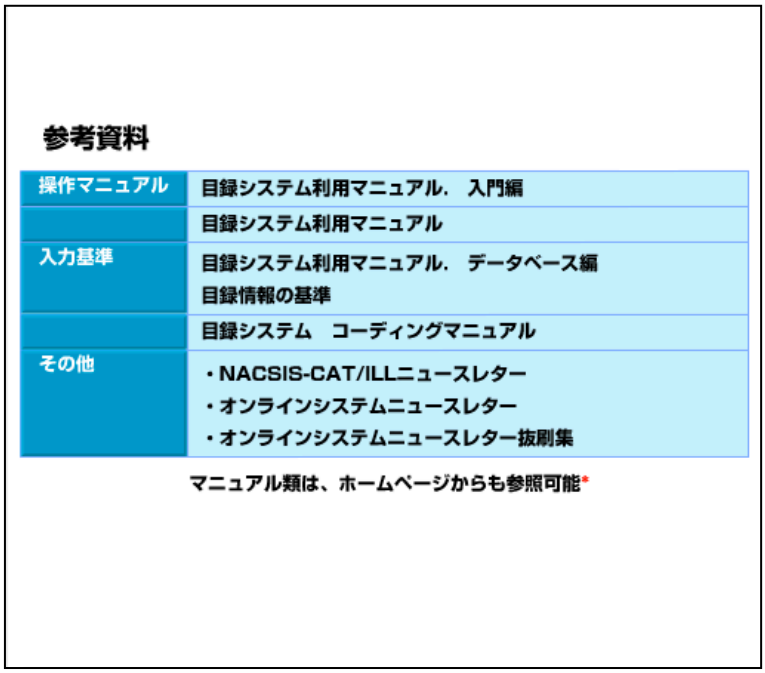
5項　まとめ



総合目録データベースに対する作業の流れをまとめてみました。
目録システムでは、まず総合目録データベースの検索を行ってから、データの登録を行う手順をとります。このように、総合目録データベースの書誌レコードを検索した結果で、その後の手順が異なります。
総合目録データベースに書誌レコードがあれば、所蔵登録を行います。
総合目録データベースに書誌レコードがなければ、参照ファイル等を利用して書誌登録を行ってから、所蔵登録を行います。
学習内容を整理しておいてください。

図書書誌データ修正指針
→コーディングマニュアル
21.0C 修正作業流れ図

付録　関連マニュアル



最後に、これから NACSIS-CAT で作業していただくうえでのマニュアル等をご紹介します。実際のデータ入力に当たっては、このようなマニュアルやニュースレターなどを参照して下さい。これらは NACSIS-CAT/ILL のホームページでも公開しており、インターネットでもご覧いただけます。

連絡協議による書誌調整廃止
→『目録情報の基準』第５版
4.8 共有データの修正
解説（並立書誌データの活用と重複書誌）

また、マニュアルで該当する内容が調べられない場合は、Q&A データベースを検索してみてください。利用者の皆さんからの質問・回答が蓄積されていて、過去に参加館の方々が疑問に思ったことが、問題解決に役立つかもしれません。 この Q&A データベースは、逆に国立情報学研究所に質問を送ることもできます。
また、~~書誌の修正・~~重複報告をお送りいただけるフォームも設けました。国立情報学研究所ではインターネットでも、皆さまのサポートが出来るようホームページの充実を図っています。最新のお知らせなど、国立情報学研究所の CAT/ILL のページを常にチェックするよう心がけてください。

おわりに

このコンテンツでは、NACSIS-CAT の仕組みと、NACSIS-CAT を使って行う作業について概要を学習してきました。
NACSIS-CAT を使った作業について概要と注意点を述べることができるようになったことでしょう。
目録作業が正確に、効率的に行われることは、目録所在情報サービスの質の向上に直結します。
学術情報の円滑な流通を推進するため、NACSIS-CAT による総合目録データベースの構築に、是非ご協力下さい。